



# 世界の人々の健康と医療の未来に貢献



## 2019年度決算発表

2020年5月13日

Better Health, Brighter Future

## 重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社 (以下、「武田薬品」) によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション (それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。) は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分、提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく) 情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で (受領者に対して提供される追加情報と共に) 提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあります。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあります。

### 将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積り、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「確実にする (ensures)」、「たどらう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではないと見なしてはなりません。将来見通し情報は、多くの重要な要素に関する仮定に基づいており、実際の結果が将来見通し情報に明示又は暗示されたものと大きく異なることがあります。重要な要素には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規の変更、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、当社、当社が事業を展開している国の政府を含む当社の顧客及びサプライヤー又は当社事業の他の側面に対する、新型コロナウイルスのパンデミックのような公衆衛生上のクライシスの影響、買収対象企業とのPMI (買収後の統合活動) の時期及び影響、武田薬品の事業にとっての非コア資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、その他米国証券取引委員会が提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書及び他の報告書に記載された事項 (https://www.takeda.com/jp/investors/reports/sec-filings/又はwww.sec.govにおいて閲覧可能です。) が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果及び公表情報は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想、保証又は見積りではありません。

### 国際会計基準に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、実質的な売上収益、Core営業利益、実質的なCore営業利益、Core純利益、実質的なCore EPS、有利子純負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリーキャッシュフローのように、IFRSに準拠しないIFRS財務指標が含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本ニュースリリースに含まれるIFRS以外の指標に基づき行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、に最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュフロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションのスライド68-80、83に最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただければ幸いです。

### 医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありません。また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

### 財務情報

当社の財務諸表は、IFRSに基づき作成しております。米国会計基準に基づき作成されておりましたシャイアー社の売上収益は、IFRSに組み替えておりますが、両者に重大な差異はございません。

シャイアー社の買収は2019年1月8日に完了しており、当社の2019年3月31日までの事業年度における連結業績には、2019年1月8日から2019年3月31日までのシャイアー社の業績が含まれています。なお、「旧武田薬品」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収前の当社のビジネスを意味し、「旧Shire社」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収により当社が取得したビジネスを意味しています。

本プレゼンテーションには、シャイアー社の買収が2018年4月1日に完了したとの前提に基づき試算が含まれています。当該試算は、米国証券取引委員会定めるRegulation S-Xの第11条に基づき算出されたものではないことにご留意ください。当該試算は、説明の便宜のため提示するものであり、また、本プレゼンテーションの作成日までに当社が入手した情報に基づく一定の前提及び判断に基づくものであって、これらの前提及び判断は、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしてもすべて当てはまるものではありません。さらに、当該試算は、シャイアー社の取得に直接には起因しない、又はシャイアー社の取得後に生じた、事業売却や取得対価配分 (PPA) 等の一定の取引及び事象も対象としています。従って、これらは、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしても、当社の財務状況及び業績を正確に反映するものではありません。そのため、本プレゼンテーションに含まれる試算は、必要以上に依拠すべきものではありません。



# AGENDA

- 01. Introduction & ビジネスエリアのフォーカス** ..... クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO 
- 02. R&D エンジン** ..... アンドリュー・プランプ  
リサーチ&開発  
プレジデント 
- 03. 強固な財務プロファイル** ..... コスタ・サルウコス  
チーフ フィナンシャル オフィサー 
- 04. Closing Remarks** ..... クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO 
- 05. 質疑応答**

# INTRODUCTION



クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO

**01.**  
Introduction &  
ビジネスエリアの  
フォーカス

**02.**  
R&D  
エンジン

**03.**  
強固な  
財務プロファイル

**04.**  
Closing  
Remarks

**05.**  
質疑応答

# 当社は患者さんおよび世界中の健康に重点を置きCOVID-19に対応

患者さんを中心にバリューに基づいたバイオ医薬品カンパニーとして、  
当社は3つの優先事項にフォーカス：

1.



従業員とその家族の  
安全確保と  
医療制度に対する  
負担の低減

2.



事業継続性の維持、  
特に患者さんへの  
当社医薬品の  
安定的な供給

3.



COVID-19を  
治療もしくは予防  
し得る医薬品の開発

4



## COVID-19の影響を軽減するための当社の取り組み

2020年1月に当社の対応を管理するグローバル危機管理委員会を設置



### 従業員の安全確保

- リモートワークのサイバーセキュリティリスクを最小化するため強固なITセキュリティモニタリングを実施、可能な限りすべてのタケダ従業員の在宅勤務を推奨
- 製造施設や研究施設など、現地で勤務する必要がある従業員の安全を確保
- 不要不急の出張や大規模な集会については、追って通知があるまで禁止



### 事業の継続性維持

- 当社製品への需要を確認したところ、待機手術を要しない重症な慢性疾患や生命を脅かす疾患に対する製品が多いため、これまでのところ影響は限定的であった
- グローバルサプライチェーンによって、在庫管理・代替サプライヤーの確保により、供給を維持・継続する。現在のところ、COVID-19の流行により重大な供給問題が発生する可能性は全くみられない
- 一部において血漿成分献血量に減少がみられるが、今後数カ月の間にこの減少を部分的もしくは全体的に相殺する要因がいくつもあるため、血漿の総量に対する長期的な影響を予測するには時期尚早
- CRO（医薬品開発業務受託機関）と連携しながら進行中の臨床試験への影響を最小限に抑える取り組みを行っている（患者さんへの治験薬の直接配送や遠隔モニタリングの方法を検証する等）
- CoVig-19を除く新規臨床試験の開始を一時的に停止し、すでに進行中の臨床試験については、一部の例外を除き、新たな患者登録を一時的に休止している。合理的に再開が許される状況に備え、速やかな対応をすべく準備を整えており、さらに新しいデジタルアプローチによる臨床試験の最適化を準備中



### 可能性のある 医薬品の開発

- CoVig-19プラズマアライアンス（高度免疫グロブリン）におけるリーダーシップと積極的な参画
- 社内の既存資産がCOVID-19の治療薬候補となり得るかを再評価（icatibant, lanadelumab, TAK-981についての臨床試験が開始もしくは計画中）するとともに、新たなアプローチでの治療研究を実施
- 治療やワクチンに関するデータや進捗を共有するための産業界間の垣根を超えた提携

- 当社は、赤十字や国際連合主導の組織を含む非営利団体に対する約2,500万米ドルの寄付および現物寄付を通じ、COVID-19対策を支援

5



# 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する 高度免疫グロブリン製剤開発のためのアライアンス



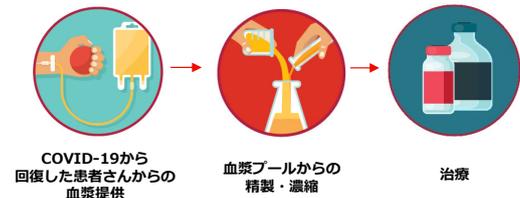
- 本アライアンスにより、血漿分画製剤におけるいくつかの企業が共同で、COVID-19による重篤な合併症を有する患者さんの治療薬となり得るノーブランドの抗SARS-CoV-2ポリクローナル高度免疫グロブリン製剤（CoVIg-19）を開発し、臨床現場に届けることにフォーカス
- 本アライアンスは、米国国立衛生研究所（NIH）の国立アレルギー・感染症研究所（NIAID）と協力し、COVID-19に罹患した成人患者さんにおける高度免疫グロブリン療法の安全性、忍容性および有効性を確認。グローバル試験は今夏に開始予定
- 本アライアンスは認知の向上を図り、COVID-19から回復されたより多くの方々からの血漿提供を促すため、血漿分画製剤業界以外の巨大企業（マイクロソフトやウーバーヘルスなど）からも支援を得ている
- 本治療薬の上市時期については、多くの要因に左右されるが、このアライアンスの成功次第によっては、CoVIg-19は最も早く承認を得る治療オプションの一つになる可能性がある

\*1. ADMA Biologics, Bio Products Laboratory (BPL), BioPharma Plasma, Biotest AG, CSL Behring, GC Pharma, LFB, Octapharma, Sanquin, Takeda

## 高度免疫グロブリン（H-IG）とは？

- 高度免疫グロブリン（H-IG）は、特定の細菌や抗原に対する高力価の抗体を提供者から集めた血漿から精製
- H-IGは、COVID-19から回復した方の血漿の直接投与と比較していくつかの違いを有する
  - 製品ユニットの抗体レベルが標準化されている
  - ウイルス特異的で十分な濃度の抗体が提供できる
  - 徹底的なウイルス不活化およびグローバルな流通や将来の流行に備えた実用に耐えうる保存期限を有する

## CoVIg-19（薬事承認まで）の製造プロセス



# 「ONE TAKEDA」が長期的な成長を実現

## 「ONE TAKEDA」 としての実行戦略

- 主要な5つのビジネスエリア・コストシナジー・営業経費効率化による力強い2019年度業績
- グローバルブランド14製品（適応拡大・中国での展開）とウェーブ1パイプラインの上市準備にフォーカス
- 成長モメンタムは2020年度も継続し、中期的に加速する見込み

## 患者さん・社会・ 株主に対する 長期的な価値の 実現

- ESGへの責任を果たし、患者さん中心でバリューに基づいた企業体
- 主要市場に十分な事業規模と競争力を有し、地理的にバランスのとれた事業展開
- 成長を実現するための、主要な5つのビジネスエリア・グローバルブランド14製品・12のウェーブ1パイプライン
- 治療法を変革し得る、次世代型医薬品の開発に注力するR&Dエンジン
- 120億米ドルを超える流動性<sup>1</sup>による強固な財務で、業界大手水準の利益率・安定したキャッシュフローを達成する見通し

\*1. 2020年3月31日時点の現金および現金同等物（6,376億円）に、7,000億円のコミットメントラインを加えたものと定義。米ドルでの表記は109円/ドルで換算した参考値。ESG: Environment, Social, Governance



# 主要な5つのビジネスエリア・コストシナジー・営業経費効率化による 力強い2019年度業績

## ビジネスエリアの フォーカス



- ・ 重要な人材・拠点・運営の統合を完了し、「One Takeda」として事業を運営
- ・ 売上収益全体の79%（対前年実質的な成長率+6%<sup>2</sup>）を占める5つの主要ビジネスエリアにフォーカス
- ・ グローバルブランド14製品の売上収益は1兆1,066億円（102億米ドル）<sup>1</sup>と対前年実質的な成長率<sup>2</sup>+22%
- ・ ビジネスにフォーカスするためのノン・コア資産の売却（売却金額が最大77億米ドルとなる5つの案件の合意について公表済）

## R&D エンジン



- ・ 2024年度までに承認可能性のあるファーストインまたはベストインクラスの12のウェーブ<sup>13</sup>新規候補物質（NMEs）および申請を可能にする9つの進行中の臨床試験
- ・ 早期開発段階にある約30のウェーブ<sup>23</sup> NMEs、および持続的な成長のための次世代基盤技術への投資増強
- ・ グローバルブランド14製品については、適応拡大や地域拡大のための20を超える申請が可能な臨床試験が進行中

## 強固な財務 プロファイル



- ・ 財務ベース売上収益：3兆2,912億円（約302億米ドル<sup>1</sup>）、実質的な売上収益成長率<sup>2</sup>+1.6%
- ・ コア営業利益<sup>5</sup>：9,622億円（約88億米ドル<sup>1</sup>）、実質的なコア営業利益率：28.9%<sup>6</sup>
- ・ 強固な営業キャッシュフローと事業売却により、フリーキャッシュフロー<sup>7</sup>は9,680億円（約89億米ドル<sup>1</sup>）
- ・ 純有利子負債/調整後EBITDA<sup>8</sup>は2020年3月時点で3.8倍と、2019年3月時点の4.7倍から減少

\*1. 米ドルでの表記は、1米ドル109円で換算した参考値。

\*2. 2019年度の実質ベースの成長率は、対2018年度のpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。

\*3. ウェーブプログラムは、2024年度までに上市予定の新規候補物質（NMEs）。ウェーブ2プログラムは、2024年度以降に上市予定のNMEs。

\*4. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は58ページ、調整表は70ページをご参照下さい。

\*5. 調整表は70ページをご参照下さい。 \*6. 調整表は78ページをご参照下さい。 \*7. 定義は59ページ、調整表は79-80ページをご参照下さい。



# 2020年度も引き続き成長モメンタムは継続 1株当たり180円の配当金

(億円)	2019年度	2020年度	実質的な成長率 <sup>3</sup> (マネジメントガイダンス)
売上収益	32,912	32,500	一桁台前半
CORE営業利益 <sup>1</sup>	9,622	9,840	一桁台後半
CORE EPS <sup>2</sup> (円)	387	420	10%台前半
1株当たり配当金 (円)	180	180	

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行拡大に伴い、当社の事業活動は前述の通り様々に影響を受けているものの、現時点までに業績に対する重大な影響は生じておりません。当社は、COVID-19は2020年度の当社業績に対して重大な影響を及ぼすことはない現時点で入手可能な情報に基づき考えており、当社の2020年度業績予想はこの考え方を反映しています。しかしながら、COVID-19を取り巻く状況は引き続き非常に流動的であり、新規または追加的な流行拡大や、主要市場におけるロックダウンや屋内退避命令の新規の措置や延長、その他政府による対策など、2020年度中の進展によっては、当社製品の需要減少やサプライチェーンに関連する問題の発生、または臨床試験の大幅な遅延など当社事業に深刻な影響を与える可能性があります。このような事態が生じた場合、当社事業や経営成績、財政状態に追加的な影響が及び、また、当社の2020年度業績は予想から大きく乖離する可能性があります。
- COVID-19アウトブレイクの中期的な財務影響について推測するのは時期尚早だが、失業率の上昇・バイヤー構成の変化・政府による医療費削減策導入の可能性などの問題から中期的に財務的影響が生じる可能性はあります。

### 2020年度ガイダンスにおけるその他の重要な仮定：

- (1) 「ベルケイド」については、2020年度において、505(b)2申請に基づく皮下投与の新たな競合品の米国上市を想定しておりません。
- (2) 事業等の売却については、公表済みの案件以外の将来の売却可能性の影響を考慮しておりません。

\*1. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は58ページ、過去の調整表は70ページ、2020年度業績予想の調整表は83ページをご参照下さい。

\*2. 過去の調整表は70ページをご参照下さい。

\*3. 実質的な成長率は2019年度内に売却された資産と2020年度に売却完了する見込みの公表済みの資産売却を調整し、固定為替レート（2019年度期中平均レート）を適用。実質的な数値は、マネジメント業績評価指標（KPIs）のベースとなる。より詳細については86-87ページをご参照下さい。



# 意欲的なカーボン、水、廃棄物目標で環境保護に向けた取り組みを加速

## ウォーター・スチュワードシップ

### 2021年度

- 水関連リスクの高いすべての拠点が、2021年度までにリスクの軽減計画および目標を設定

### 2025年度

- 2025年度における水使用量を2019年度比較で5%減少

\*1. 2016年度との比較

\*2. 2018年度との比較

スコープ 1: 直接排出（自社施設における化石燃料の燃焼） オンサイトでの燃料の燃焼、会社所有の車両、施設内の機器などの会社所有または制御された発生元からの直接排出

スコープ 2: 間接排出（購入した電力・上記の使用による） 購入および消費した電力、熱、および当社施設に供給される第三者の蒸気から生じる間接的な温室効果ガスの排出

スコープ 3: 間接排出（スコープ2以外のタケダのバリューチェーンでの排出） サプライヤーが提供する商品やサービス、出張、従業員の通勤、埋立廃棄物処理などを含む、バリューチェーンで発生するその他のすべての間接的な排出

## カーボン・ニュートラル

### 2020年度

- 厳選された実証済みのカーボンオフセットによる2020年度以降からのカーボン・ニュートラル
- Science Based Targetイニシアチブの公式検証を受けた温室効果ガス排出削減目標

### 2025年度

- スコープ1&2の**40%削減**<sup>1</sup>
- スコープ3排出の**15%削減**<sup>2</sup>
- 実証済みのカーボンオフセットにより残りの排出を緩和

### 2040年度

- スコープ1&2の**100%削減**<sup>1</sup>
- スコープ3排出の**50%削減**<sup>2</sup>
- 実証済みのカーボンオフセットにより残りの排出を緩和

## 廃棄物最小化

### 2025年度

- 廃棄物総量の90%以上を埋立てから転換

### 2030年度

- 埋め立て廃棄物ゼロを達成

当社は「埋立て廃棄物ゼロ」（ZWL）を、発生する廃棄物の総量の99%以上が埋立てから転換されることと定義しています（建設・解体廃棄物およびサイト修復活動の一環として発生した廃棄物を除く）。



# ベスト・イン・クラスのガバナンスおよび株主との協調に対するコミットメント

タケダではベスト・イン・クラスのコーポレート・ガバナンスの実現および株主の皆様との連携に向けた継続的な取り組みの一環として、報酬方針の強化とマネジメントの業績評価指標（KPIs）の開示強化に取り組んでいます。

1. 外部公表ガイダンスと関連した株主価値の創造に沿ったマネジメント業績評価指標（KPIs）の確立
  - ・ 2019年度マネジメントKPIsを2019年7月31日に開示
  - ・ 定時株主総会の招集に先立って、2020年度マネジメントKPIsを2020年5月13日に開示
2. 取締役を支払われた報酬総額および1億円以上を受領した取締役の個別の報酬を開示
3. 2020年4月1日から報酬返還ポリシー（クローバックポリシー）を適用

## クローバックポリシー

- ・ 決算内容の重大な修正再表示（過去の財務諸表における誤りの訂正を財務諸表に反映すること）または重大な不正行為が発生した場合、独立社外取締役は当社に対し、当社の役員のインセンティブ報酬の返還を要求することができる

## マネジメント業績評価指標（KPIs）

- ・ 全社を挙げてさらなる成長や収益性の向上、パイプラインの進展、支出管理、株主価値の創出に注力できるKPIsとなっている。さらに、本KPIsはタケダの事業運営計画および外部に対するガイダンスと関連している



# 約70%の社外取締役および3つの委員会による強固な取締役体制

## 社内取締役



クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO



岩崎 真人  
取締役  
ジャパン ファーマ  
ビジネスユニット プレジデント



アンドリュー・プランブ  
取締役  
リサーチ&開発部門  
プレジデント



コスタ・サルウコス  
取締役  
チーフ フィナンシャル  
オフィサー

## 監査等委員会



山中 康彦  
取締役  
監査等委員

## 独立社外取締役\*1



坂根 正弘  
独立取締役  
取締役会議長  
指名委員会委員長



オリビエ・ボユオン  
独立取締役



ジャン=リュック・プテル  
独立取締役



イアン・クラーク  
独立取締役



藤森 義明  
独立取締役



スティーブン・ギリス  
独立取締役



国谷 史朗  
独立取締役



志賀 俊之  
独立取締役



初川 浩司  
独立取締役  
監査等委員会委員長



東 恵美子  
独立取締役  
監査等委員  
報酬委員会委員長



ミシェル・オーシンガー  
独立取締役  
監査等委員

- 取締役会議長
- 独立社外取締役\*1
- 指名委員会\*2
- 報酬委員会

\*1. 東京証券取引所の有価証券上場規定の定義によるもの

\*2. クリストフ・ウェバーは指名委員会にオブザーバーとして参加

# 主要な領域における深いフォーカスと専門知識に基づく成功

## ビジネスエリア フォーカス



- 主要な5つのビジネスエリアは、2019年度売上収益の約79%を占め実質的な成長率は+6%<sup>1</sup>
- グローバルブランド14製品 の実質的な成長率は+22%<sup>1</sup>

## R&D フォーカス



- 12のウェーブ1 NMEs<sup>2</sup> :  
ピーク売上合計で100億米ドルを超える可能性
- 約30のウェーブ2 NMEs<sup>2</sup> : 豊富な早期臨床パイプライン

\*1. 対前年の変化は、対2018年度の実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire売上収益（事業売却等を調整）の合計。

\*2. ウェーブ1プログラムは、2024年度までに上市予定の新規候補物質（NMEs）のプロジェクト。ウェーブ2プログラムは、2024年度以降に上市予定のNMEsのプロジェクト。

## 中国における長期戦略が成果を上げ始める



- 近年の医療政策環境の変化は、革新的な治療を患者さんに届けるための素晴らしい機会を提供している
- 医療改革は、国民の健康と運動を促進しイノベーションに報いることを目的としている

- 2019年度の中国の売上収益は、主にオンコロジー製品（NINLARO）、Flexbumin/Albuminの貢献により、763億円、実質的な成長率は+32%<sup>1</sup>

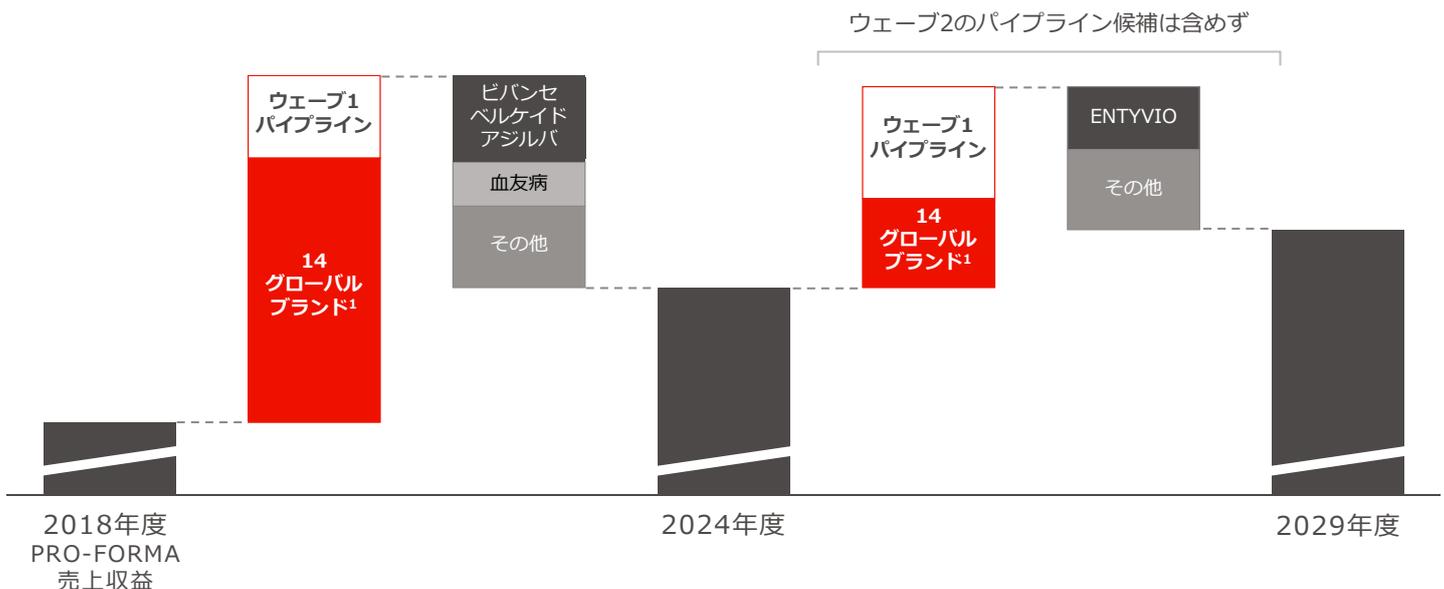
- ・ NINLAROについて、計画より1年早く2018年7月に使用可能となり、腫瘍内科医の処方による力強い立ち上がり
- ・ NINLAROが2018年10月に国家医療保険償還医薬品リスト（NRDL）に掲載され、現在までに約8,000例が治療を受けた
- 今後5年間で、ENTYVIO・ADCETRIS・TAKHZYROの2020年度発売予定品を含む、15品目以上の新製品発売を予定しており、カバレッジの拡大、アクセスの拡大、上市の加速化に向けた具体的な取り組みを推進
  - ・ 「緊急要請」医薬品リストに含まれた後、当初の予定を大幅に前倒して2020年3月にENTYVIOが承認
- 今後のすべてのグローバル臨床試験プログラムに中国を含める予定
- 現地での事業運営能力を大幅に強化（医療データの創出、規制や市場へのアクセス）



\*1. 2019年度の実質ベースの成長率は、対2018年度のpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。



## 持続的な成長を実現するためのグローバルブランド14製品およびウェーブ1パイプライン



注：本チャートは2019年11月14日のTakeda's R&D Dayで最初に発表してから変更していません

\*1. 2018年度から2024年度における14グローバルブランドにはENTYVIOが含まれているが、2024年度から2029年度の14グローバルブランドからは除かれている。

上記のチャートは、2024年から2029年までの売上収益の概念的な変化を示したものであり、独占販売権の消失による減収を補いつつ、2018年度 Pro formaベースラインと比較して1桁台の成長を達成する見込みを示している。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。タケダの発売済み製品およびパイプラインによる将来の実際の売上収益は異なる可能性があり、場合によっては大幅に異なる可能性がある。これは、臨床開発の結果が、安全性、有効性および製品の添付文書など多くの変数によって大幅に変わる可能性があるためである。さらに、製品が承認された場合の患者集団、競争環境、価格設定および保険償還などの商業上の要因の影響も不明である。ウェーブ1パイプラインの売上収益見込みはリスク調整を行っていない。





# ビジネスエリアの フォーカス



クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO

- 01.**  
Introduction & ビジネスエリアのフォーカス
- 02.**  
R&D エンジン
- 03.**  
強固な財務プロフィール
- 04.**  
Closing Remarks
- 05.**  
質疑応答

## 2019年度売上収益のうち、主要な5つのビジネスエリアで約79%を占める：成長率+6%

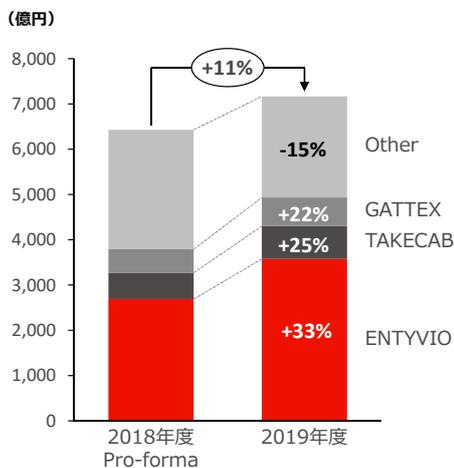
消化器系疾患 対売上収益比約21% 対前年比+11%	希少疾患 対売上収益比約20% 対前年比△5%			血漿分画製剤 (PDT) 対売上収益比約12% 対前年比+9%	オンコロジー 対売上収益比約13% 対前年比+8%	ニューロサイエンス 対売上収益比約13% 対前年比+11%	その他 対売上収益比約21% 対前年比△12%
<p><b>希少代謝性疾患</b> 対売上収益比約6% 対前年比△3% (NATPARA除き同+5%)</p> <p>elaprase (idarubicin) REPLAGAL (replagal) VPRIV (vprival) Natpara<sup>*1</sup></p>	<p><b>希少血液疾患</b> 対売上収益比約10% 対前年比△9%</p> <p>ADVATE (Anthrhemophilic Factor (Recombinant)) ADYNOVATE (Bicteclovir 480 mg) vonvendi (von Willebrand factor (Recombinant)) Obizur (Anthrhemophilic Factor (Recombinant), Porcine Sequence) RIXUBIS (COAGULATION FACTOR IX (RECOMBINANT)) AGR'LIN (anagrelide hydrochloride)</p>	<p><b>遺伝性血管浮腫</b> 対売上収益比約4% 対前年比+3%</p> <p>TAKHZYRO (tinzaparin sodium) firazyr (fibrinogen) KALBITOR (ecallantide)</p>	<p><b>PDT免疫疾患</b> 対売上収益比約12% 対前年比+9%</p> <p>GAMMAGARD LIQUID (Immune Globulin Intravenous (Human)) 10% HyQvia (Human Normal Immunglobulin (H)) Recombinant Human Hyaluronidase Cuvitru (Immune Globulin Subcutaneous (Human)) 20% Flexbumin (Human Albumin) HUMAN ALBUMIN (Human Albumin) Glassia (Glycyrrhizic acid) Aralast NP (Btk inhibitor (human))</p>	<p><b>PDT免疫疾患</b> 対売上収益比約12% 対前年比+9%</p> <p>kenketu glovenin-I KENKETU NONTHRON<sup>®</sup> KENKETU ALBUMIN</p>	<p><b>オンコロジー</b> 対売上収益比約13% 対前年比+8%</p> <p>NINLARO (irinotecan) capsules ALUNBRIG (alectinib) tablets VELCADE (docetaxel) injection ADCETRIS (brentuximab vedotin) HUMAN ALBUMIN (Human Albumin) Glassia (Glycyrrhizic acid) ICLUSIG (icucumab) CABOMETYX (cabozantinib) tablets</p>	<p><b>ニューロサイエンス</b> 対売上収益比約13% 対前年比+11%</p> <p>Vyvanse (lisdexamfetamine) Trintellix (vortioxetine) Mydayis (mydayis) AZILECT (rasagiline) intuniv (clonidine) BUCCOLAM (clonazepam) tablets</p>	<p><b>その他</b> 対売上収益比約21% 対前年比△12%</p> <p>AZILVA<sup>®</sup> Nesina<sup>®</sup> (alogliptin) Colcrys (colchicine) tablets Neosaldina<sup>®</sup> Magnyl Xefo Ebrantil etc.</p>

注：対前年の変化は、対2018年度の実績ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire売上収益（事業売却等を調整）の合計。  
\*1. 当社はNATPARAの供給再開計画についてFDAと緊密に連携したが、製品改良および試験により、使用可能となる時期が2020年以降に遅延すると想定される。その結果、2020年度は米国でのNATPARAの売上収益を見込めない。



# 消化器系疾患フランチャイズの堅調な成長は腸管選択的なENTYVIO®が牽引

## 消化器系疾患 ポートフォリオ 2019年度 実質的な売上収益成長

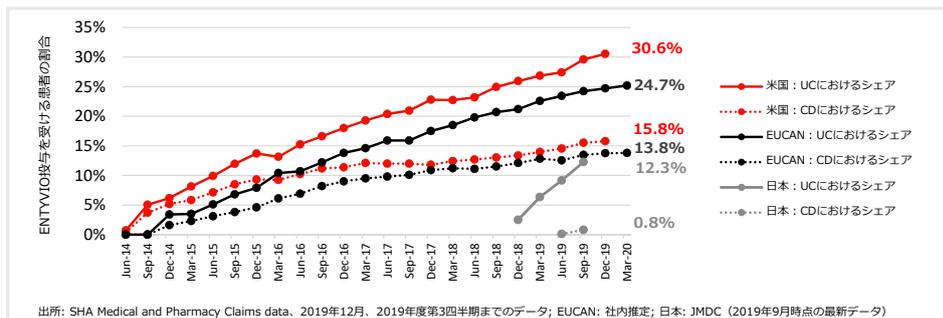


### 短腸症候群（腸管不全）の明確な治療法として確立

- タケダが支援してきた医学教育を通じて疾患認知が増加
- 成人において治療継続性を高め、小児においてはさらなる使用による成長

### 米国・欧州・日本において患者シェアの拡大

- 潰瘍性大腸炎におけるアダリムマブとの初めてかつ唯一の直接比較データ (VARSITY) がNEJMに掲載され、有効性プロファイルが処方医に認められた
- 皮下投与と製剤について
  - 欧州において、2020年5月に潰瘍性大腸炎およびクローン病の適応症で承認取得
  - カナダにおいて、2020年4月に潰瘍性大腸炎の適応症で承認取得
  - 米国において、2019年12月に受領した審査完了通知 (CRL) についてFDAと協議を継続中
- 中国において、2020年3月に静脈注射製剤が承認取得 (専属チームが発売準備中)



注: 売上収益の絶対値は国際会計基準 (IFRS) ベースの数字 (財務ベース)、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度 (2018年4月-2019年3月) の武田薬品売上収益 (事業売却等を調整) と、2018年度の年間平均レート (1米ドル111円) で円貨換算し米国会計基準からIFRSに組み替えた (なお、重要な差異は認められなかった) 2018年4月から買収完了日 (2019年1月8日) までの旧Shire社売上収益 (事業売却等を調整) の合計。  
NEJM: New England Journal of Medicine、EUCAN: 欧州およびカナダ、疾患名の略語用語集は参考資料をご参照下さい。



# 遺伝性血管性浮腫ポートフォリオは再び成長軌道へ

## TAKHZYRO®は遺伝性血管性浮腫において予防市場を拡大

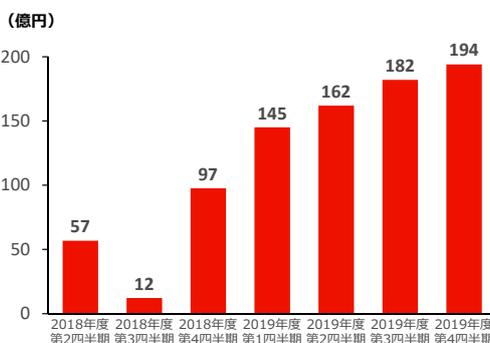
### 米国:

- 有効性プロファイルにより遺伝性血管性浮腫に対する基礎的治療薬としてTAKHZYROの位置付けを確立
- 遺伝性血管性浮腫におけるTAKHZYROの予防治療での使用拡大、2018年におけるすべての治療患者の50%から2019年には57%へ
- TAKHZYROは、タケダ製品への新規患者を増加させている (TAKHZYRO治療患者の約50%はタケダ製品による治療を受けていない患者)

### その他の地域:

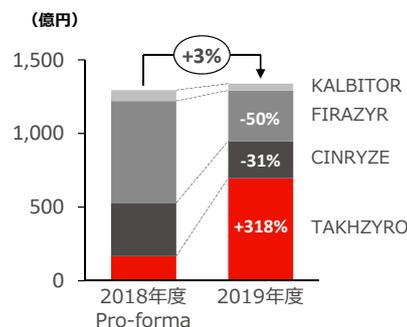
- ドイツ・オーストリア・英国・イスラエル・アラブ首長国連邦での力強い立ち上がり。ギリシャ・フィンランド・ノルウェー・スウェーデン・スイスでは、初回アクセス制度 (イニシャル・アクセス・スキーム) を実施
- イタリア・フランス・スペイン・湾岸諸国で保険償還の交渉が進行中
- 2020年度に20ヶ国以上での上市を予定

### TAKHZYRO上市以降のグローバル売上収益\*2



## 遺伝性血管性浮腫

2019年度 実質的な売上収益成長



- 遺伝性血管性浮腫ポートフォリオはTAKHZYROの力強い成長 (2020年度も継続する見込み) により再び成長軌道へ
- C1インヒビター患者に対する治療の継続を可能にするCINRYZEの安定供給
- FIRAZYRの独占販売期間終了

\*1. 社内データ

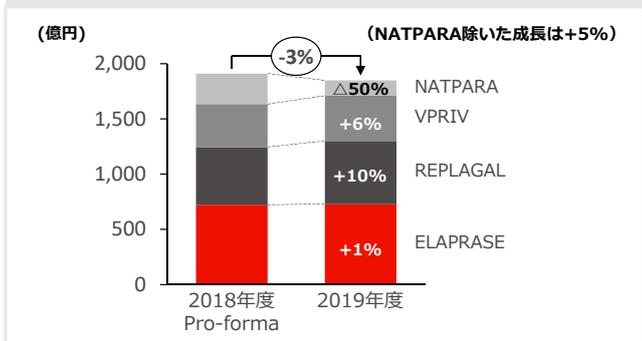
\*2. 2018年度第2四半期および第3四半期の売上収益はShire社買収前の数字であり、1米ドル111円 (2018年度の期中平均レート) で円貨換算したものの (なお、重要な差異は認められなかった)。注: 売上収益の絶対値は国際会計基準 (IFRS) ベースの数字 (財務ベース)、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度 (2018年4月-2019年3月) の武田薬品売上収益 (事業売却等を調整) と、2018年度の年間平均レート (1米ドル111円) で円貨換算し米国会計基準からIFRSに組み替えた (なお、重要な差異は認められなかった) 2018年4月から買収完了日 (2019年1月8日) までの旧Shire社売上収益 (事業売却等を調整) の合計。



希少疾患

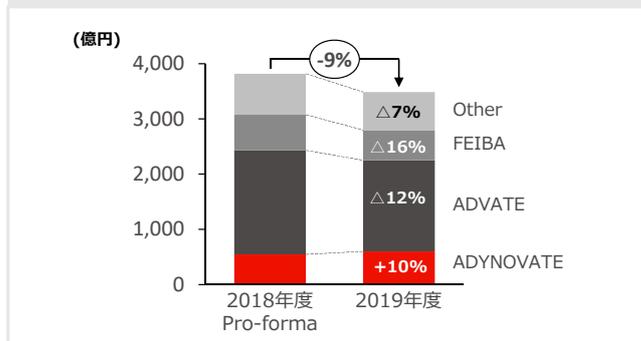
# 希少代謝性疾患では米国でのNATPARA®回収影響を除き安定した成長 希少血液疾患における競合の影響は想定通り

希少代謝性疾患  
2019年度 実質的な売上収益成長



- NATPARAの対前年比での売上減少は、米国において2019年9月に製品回収を行ったことが要因。NATPARAを除く希少代謝性疾患ポートフォリオは+5%（実質的な成長）
- NATPARAの治療中断によって、生命を脅かす合併症などが発現するといったリスクの高い患者さんのために、特別使用プログラム（Special Use Program）を用意
- 当社は、米国におけるNATPARAの供給再開計画について米国食品医薬品局（FDA）と緊密に協議を進めているものの、必要とされるデバイスの変更や製品試験の実施により、供給は2020年以降に遅れることが予想されます。その結果、2020年度は米国でのNATPARAの売上収益を見込んでいない

希少血液疾患  
2019年度 実質的な売上収益成長



- 発売国数増加でADYNOVATEは成長（米国外では現在30カ国で発売中）；PROPEL試験データは個別化出血予防の重要性を裏付ける
- ADVATEの減少は、ADYNOVATE拡大と従来型の標準的な半減期セグメントでの価格圧力増加が部分的に起因する
- ADVATEおよびADYNOVATEの競合の影響は国ごとに異なる
- FEIBAの減少は出血予防セグメントでの競合浸食によるが、米国における急性期での使用においては安定してきている

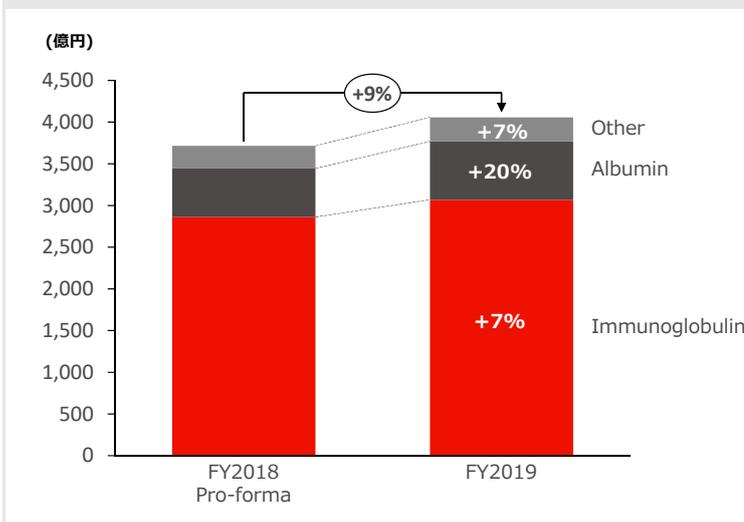
注：売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）ベースの数字（財務ベース）、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準からIFRSに組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。



血漿由来の免疫疾患治療

## 血漿分画製剤の免疫疾患治療領域の成長は 免疫グロブリン皮下注射製剤とアルブミンが牽引

血漿由来の免疫疾患治療ポートフォリオ  
2019年度 実質的な売上収益成長



- 免疫グロブリン製剤は、皮下注射製剤（SCIG）の継続的な成長により、対前年同期+7%（第4四半期：対前年同期+17%）と成長が加速
- 免疫グロブリン製剤の2020年度の成長は+10%～+20%を見込む
- アルブミンは中国における需要増加および製造規模の拡大により、対前年同期+20%の成長
- その他の免疫グロブリンポートフォリオは、米国におけるアルファ-1製品群（Glassia・Aralast）の貢献により、対前年同期+7%の成長

血漿収集センターへの投資継続

- ・ 現在、米国に123、米国外に31のセンターを保有。旧Shire社買収完了後の15ヶ月間に32センターを増加
- ・ 血漿収集量は、2018年度と比較して+13%増加
- ・ 血漿分画製剤の供給および製造能力を、今後5年間で65%以上増加させるため、運営の効率化を図りつつ新規センターへの投資を継続する予定

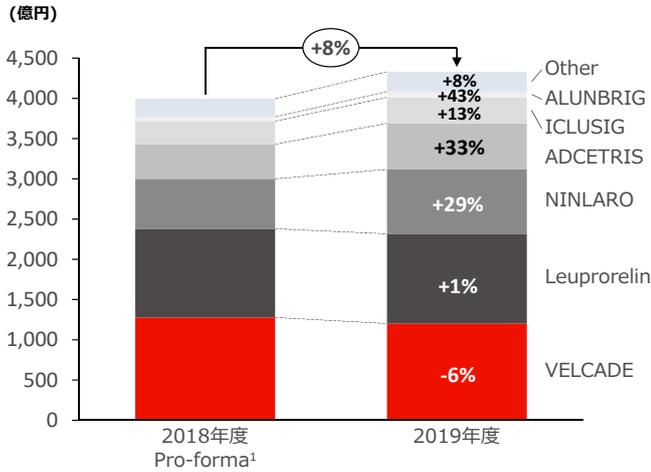
注：売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）ベースの数字（財務ベース）、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準からIFRSに組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。



## オンコロジー

# 力強いオンコロジーポートフォリオは適応拡大を続ける

### オンコロジー ポートフォリオ 2019年度 実質的な売上収益成長<sup>\*1</sup>



#### 一次治療の適応で初めての承認取得



- 欧州委員会が、ALTA-1L試験の結果に基づいてALK陽性非小細胞肺癌の一次治療として承認
- 一次治療の適応に関して米国FDAが優先審査に指定；審査終了目標日（PDUFA date）は2020年6月23日
- 日本において、他のALK阻害剤による治療後に増悪した非小細胞肺癌に対する適応で2020年2月に承認申請

#### 維持療法の適応で初めての承認取得



- 日本において、自家造血幹細胞移植実施後の維持療法で2020年3月に初めての承認取得
- 初発の多発性骨髄腫を対象としたTOURMALINE-MM2試験が主要評価項目を達成できず、データは今後の学会で公表予定

#### 未治療のCD30陽性末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）に対して承認



- 日本・ブラジル・韓国にて未治療CD30PTCLに対する承認取得  
欧州では、未治療の全身性未分化大細胞型リンパ腫（sALCL）に対して欧州医薬品評価委員会（CHMP）から肯定的見解を取得

#### 日本において新規上市



- 治癒切除不能または転移腎細胞がん（RCC）に対して使用が可能

\*1. 旧Shire社のオンコロジー事業売上収益は含まない。

\*2. ADCETRISはSeattle Geneticsより導入；北米外での販売権を保有。

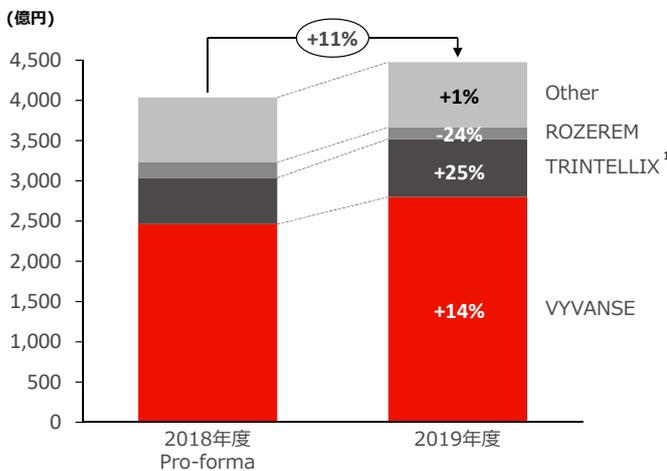
注：売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）ベースの数字（財務ベース）、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。



## ニューロサイエンス

# ニューロサイエンスの成長はUSビジネスユニットの強化によって牽引

### ニューロサイエンス ポートフォリオ 2019年度 実質的な売上収益成長



米国ブランド市場における、新たな販促活動のフォーカスが市場シェア獲得につながっている

- VYVANSEを一次治療のオプションとすることにフォーカスした人（Sales Rep）によるプロモーションと、人以外によるプロモーションの両方についてシナジー効果のある投資を実施
- カナダでの立ち上がりや欧州での診断患者増加による、さらなる成長
- 日本において2019年12月に発売



TRINTELLIXはライフサイクルにおける現段階でも、ブランド製品の類似薬の中で上位のポジションを保ち続けている

- 患者さんや医療従事者による認知の増加および患者さんにフォーカスした投与開始後のリソースの活用増加により、米国のブランド市場における市場シェアの伸びが継続
- 日本において2019年11月に発売

\*1. TRINTELLIXはLundbeck社より導入；米国と日本で共同販売権を保有。

注：売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）ベースの数字（財務ベース）、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準からIFRSに組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。



# グローバルブランド14製品は+22%の成長率

2019年度 売上収益					2019年度 売上収益						
		(億円)	(百万米ドル)	対前年	グローバル ブランド			(億円)	(百万米ドル)	対前年	グローバル ブランド
消化器系疾患	Entyvio <small>vedolizumab</small>	3,472	3,189	+32.9%		血漿分画製剤	IMMUNOGLOBULIN	2,987	2,744	+7.2%	
	Takecab	727	668	+24.9%			GAMMAGARD Liquid <small>[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%</small>	Kiovig <small>Human Immune Globulin (HIG) 10%</small>	+5.5%		
	Gattex <small>(Fentanyl) (Fentanyl) for injection</small>	618	568	+21.7%			HyQvia <small>Human Normal Immoglobulin (HNI) Recombinant Human Albumin</small>	+16.4%			
	ALOFISEL	4	3	N/A <small>(2018年6月上市)</small>			Cuvitru <small>Human Cytokine Substrates (Human) 2%</small>	+11.1%			
希少疾患	TAKHZYRO <small>(lanadelumab-lycy) injection</small>	683	627	+31.8%		ALBUMIN/FLEXBUMIN*1	672	617	+20.3%		
	ADYNOVATE <small>Adynovate a10 mg/ml Recombinant Coagulation Factor VIII</small>	587	539	+9.8%		オンコロジー	NINLARO <small>(ikazomib) capsules</small>	776	712	+28.5%	
	Natpara	136	125	-49.7%			ADcetris <small>brentuximab vedotin</small>	527	484	+33.1%	
	elaprase <small>(icursulfase)</small>	679	624	+0.7%			ALUNBRIG <small>BRICICATINE</small>	72	66	+43.1%	
	REPLAGAL <small>REPLAGAL</small>	513	471	+9.6%		ニューロサイエンス	Vyvance	2,741	2,518	+13.7%	
	VPRIV	380	349	+5.5%			Tintellix <small>vortioxetine</small>	707	649	+25.0%	

## 14グローバルブランドの2019年度売上収益合計: 1兆1,066億円 (102億米ドル)<sup>2</sup> (実質的な成長率+22%)

\*1. Albumin Glass, Flexbuminおよび献血アルブミンを含む。

\*2. 米ドルでの表記は1米ドル109円で換算した参考値。

注: 売上収益の絶対値は国際会計基準 (IFRS) ベースの数字 (財務ベース)、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度 (2018年4月-2019年3月) の武田薬品売上収益 (事業売却等を調整) と、2018年度の年間平均レート (1米ドル111円) で円貨換算し米国会計基準からIFRSに組み替えた (なお、重要な差異は認められなかった) 2018年4月から買収完了日 (2019年1月8日) までの旧Shire社売上収益 (事業売却等を調整) の合計。



## R&D エンジン



アンドリュー・プランプ  
リサーチ&デベロップメント  
プレジデント

01.

Introduction & ビジネスエリアのフォーカス

02.

R&D エンジン

03.

強固な財務プロフィール

04.

Closing Remarks

05.

質疑応答



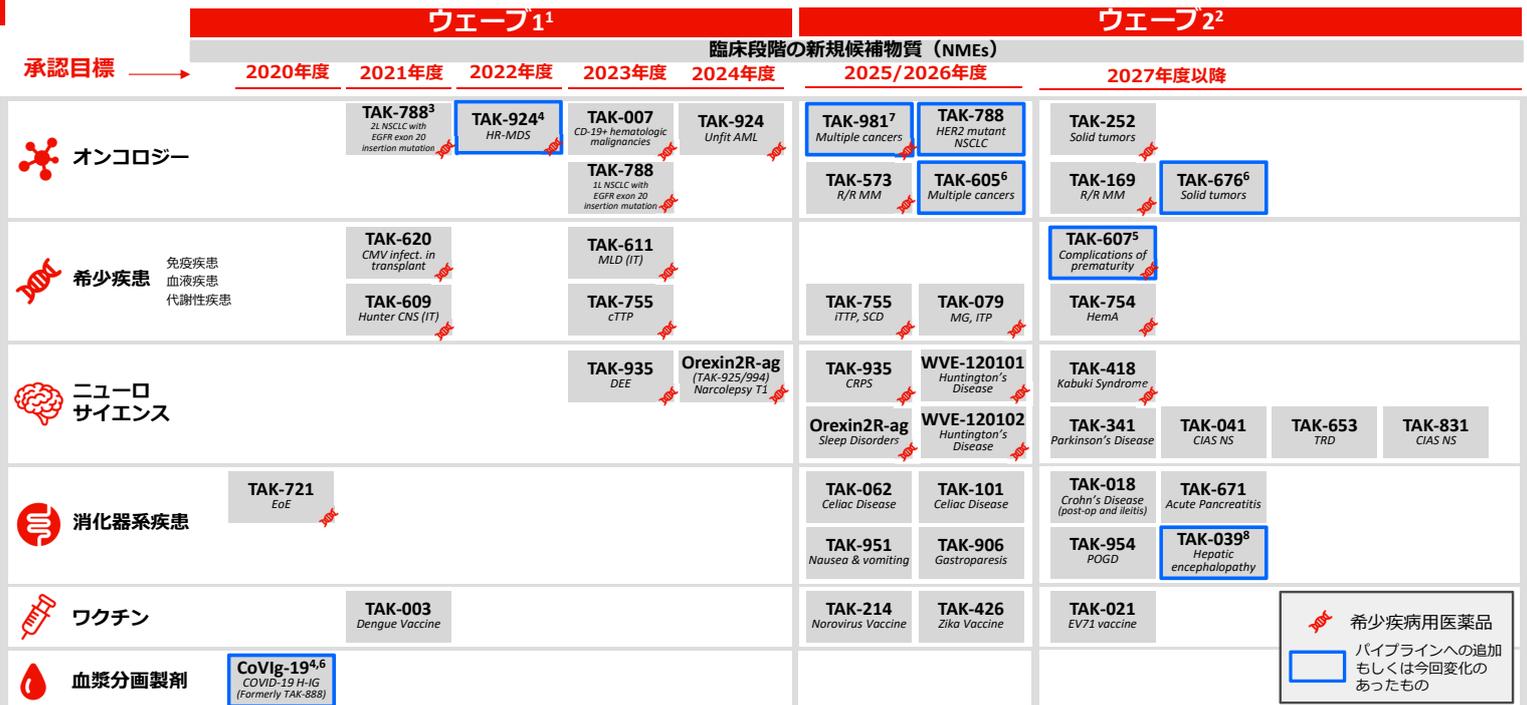
# サイエンスから高度に革新的な医薬品への変換

- 2024年度までに承認可能性のあるファーストインまたはベストインクラスの12のウェーブ1 NMEsおよび申請を可能にする9つの進行中の臨床試験
- 早期臨床開発段階にある約30のウェーブ2 NMEs、および2025年度以降の持続的な成長のための次世代基盤技術への投資増強
- グローバルブランド14製品については、適応拡大や地域拡大のための申請が可能で20を超える臨床試験が進行中
- 中国における事業拡大、今後5年間で15を超える承認を予定
- 2019年度にバイオテックおよびアカデミアと38の新たな研究開発提携を開始

26 NME (New Molecular Entity) : 新規候補物質  
 ウェーブ1プログラムは、2024年度までに上市予定の新規候補物質 (NMEs)。ウェーブ2プログラムは、2024年度以降に上市予定のNMEs。



## 新規データに基づいたパイプラインの力強いモメンタム



\*1. 承認日の予想はデータ読み出しに影響される。ウェーブ1の一部の目標承認日は迅速承認を想定  
 \*2. ウェーブ2の一部は、画期的なデータを取得すればウェーブ1に加速される可能性もある  
 \*3. Ph2データでの申請を想定した承認予想時期  
 \*4. 新たなデータや試験の進捗状況に基づき変わり得る承認予想時期  
 \*5. タイムラインの見直しにより、ウェーブ1のタイムフレーム外での承認となる見込み  
 \*6. 予想される臨床パイプラインへの新規追加 (2020年度上期の患者登録開始を想定)  
 \*7. 加速タイムラインのウェーブ2プログラム  
 \*8. 肝性脳症での開発を予定

全てのタイムラインは2020年5月13日時点における最良の予測であり、COVID-19によって影響を受ける可能性がある



# 短期間でウェーブ 1 のオンコロジーパイプラインが拡大 mobocertinibがブレイクスルーセラピーに指定

## mobocertinib<sup>1</sup> (TAK-788)

非小細胞肺癌のうちEXON20挿入変異セグメントにおける新たな標準治療となる可能性



## pevonedistat (TAK-924)

高リスク骨髄異形成症候群および急性骨髄性白血病の治療に有意な進展をもたらす可能性



### 現状の開発



承認申請が可能な Ph2試験  
2L+ 非小細胞肺癌 EGFR exon20  
(データ読み出し 2020年度上半期)



(非小細胞肺癌のうち1-2%)

グローバルPh3試験  
1L 非小細胞肺癌 EGFR exon20

### P2001

ASCO<sup>2</sup> and EHA<sup>2</sup> における口演 (2020年6月)  
Ph2試験 pevonedistat + aza<sup>3</sup> vs. aza



Ph3試験 高リスク骨髄異形成症候群、慢性骨髄単球性白血病、低芽球比率 急性骨髄性白血病  
pevonedistat + aza vs. aza  
(データ読み出し 2020年度下半期)

### PEVOLAM

(非適応 ~50%  
1L 急性骨髄性白血病)

Ph3試験 1L 非適応 急性骨髄性白血病  
pevonedistat + aza vs. aza  
(データ読み出し 2023年度<sup>4</sup>)

### 拡大の機会

**HER2変異を伴う固形がん**  
(乳がん、消化器がん、膀胱がんのうち2-10%)

Phase 2試験  
TAK-788 + HER2-抗体薬物複合体  
HER2 変異固形がん 2020年度開始<sup>4</sup>

**HER2変異非小細胞肺癌**  
(非小細胞肺癌のうち2-4%)

用量拡大試験  
非小細胞肺癌  
Ph3試験入りの実施の判断は  
2022年度まで

**強力な化学療法非適応  
急性骨髄性白血病**  
(非適応 ~50%  
1L 急性骨髄性白血病)

Ph2試験 1L 非適応 急性骨髄性白血病  
pevonedistat + venetoclax + aza vs.  
venetoclax + aza.

\*1. TAK-788 は、化学療法中あるいは治療後に増悪がみられたEGFRエクソン20挿入変異を有する転移性非小細胞肺癌に対してブレイクスルーセラピー指定。

\*2. ASCO: 米国臨床腫瘍学会; EHA: 欧州血液学会

\*3. AZA - Azacitidine

\*4. COVID-19の影響により、タイミングが遅延する可能性がある。



# 革新的なウェーブ 2 パイプラインの新たなデータ

## TAK-981

SUMO化を阻害し免疫反応を増強する  
ファースト・イン・クラスの低分子化合物



## TAK-039

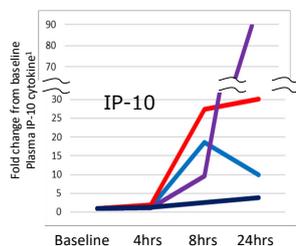
肝性脳症の治療薬となる可能性を有する  
経口投与可能な生菌群



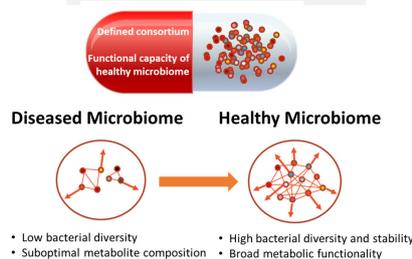
### 作用 メカニズム

#### I型インターフェロンのシグナル伝達増強 およびリンパ球の活性化

Analysis	Tissue	Significant Modulation
Target Engagement	Blood, Skin, Tumor	✓
SUMO-2/3 Inhibition	Blood, Skin	✓
Plasma Cytokines	Blood	✓
Type I IFN Signature	Blood	✓
Activation of Immune Cells	Blood	✓



#### 消化管での恒常性の回復



### 新たな データ

- 固形がんに対する単剤での用量漸増試験、非ホジキンリンパ腫に対するrituximab との併用での作用
- COVID-19陽性のがん患者における抗ウイルス効果の探索
- 当初の開発は、固形がんおよび再発・難治性非ホジキン型リンパ腫に対する抗PD-1抗体との併用療法

- 作用メカニズムの検証試験<sup>2</sup>では *C. difficile* が対象 78.9% (19例中15例) の患者が、再発防止の主要評価基準を達成
- 第2の治療コースでは、再発患者4例中3例で再発が抑制 全奏効率は 94.7% (18例/19例)
- 米国および欧州では20万例以上の患者が毎年肝性脳症に罹患

\*1. インターフェロンガンマが誘導した10kDaたんぱく (IP-10) は、用量漸増試験における4例 (60mg投与) で測定。

\*2. 米国消化器病週間2020 における口演に採択、評価の高い学術誌へ投稿作業中。



# 新規候補物質パイプラインに対して 2019年度期初に予定されていた目標を力強く推進

	作用機序	疾患/事業領域	予定されるイベント	19年度	コメント	
ウェブ1	TAK-924 (pevonedistat)	NAE 阻害薬	オンコロジー	多発性骨髄腫における承認申請可能なPh2試験のデータ読み出し	H1 ✓	データ読み出しがなされ、来たる米国臨床腫瘍学会での発表を予定
	TAK-788 (mobocertinib)	EGFR/HER2 チロシンキナーゼ阻害薬	オンコロジー	Ph3試験開始未治療のEGFR exon20挿入変異を有する非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者におけるPh3試験開始	H1 ✓	2019年度下期に達成
	TAK-007	CD19 CAR-NK	オンコロジー	少なくとも1つの革新的がん免疫細胞療法への初回投与	H2 ✓	CD19 CAR-NK プログラムが臨床ポトフォリオに追加
	TAK-755	ADAMTS-13酵素補充	希少疾患	先天性血栓性血小板減少性紫斑病 (cTTP) のPh3試験再開	H2 ✓	追加効能として免疫性血栓性血小板減少性紫斑病のPh2試験、鎌状赤血球症のPh1/2試験の最初の患者さんへの投与を開始
	TAK-609	イズロン酸-2-スルファターゼ補充 (髄腔内投与)	希少疾患	ハンター症候群および認知障害におけるPh3試験データの読み出し (2年間の延長試験)	H1 →	実施中の3年間延長試験の追加解析を実施中 結果は2020年度上期に得られる予定
	TAK-925	オレキシン2R アゴニスト	ニューロサイエンス	R&D Dayでオレキシン2Rアゴニストプログラムのアップデート	H2 ✓	TAK-925 は1型ナルコレプシーや他の睡眠障害治療の可能性で早期POCを達成。経口OX2RであるTAK-994は、1型ナルコレプシーでの臨床試験が進行中
	TAK-721	粘膜付着性局所 コルチコステロイド	消化器系疾患	好酸球性食道炎Ph3試験データの発表	H2 ✓	米国消化器病学会にて12週間のPh3試験データを発表。Ph3試験の延長データは20年度下期に発表予定
TAK-003	デング熱ワクチン	ワクチン	デング熱ワクチンとしての申請可否の判断	H2 →	DEN-301 Ph3試験の18か月のデータを2019年11月に米国熱帯病学会 (ASTMH) にて発表。2020年度に申請予定	
ウェブ2	TAK-573	抗CD38抗体と活性減弱 サイトカインとの融合蛋白	オンコロジー	再発/難治性多発性骨髄腫でのPOC検証試験のデータ読み出し	H1 →	薬理学データから新規のがん免疫療法としての作用機序を確認、POC解析が進行中。多発性骨髄腫での併用試験を2020年度上期に開始予定、固形がんでのPh1試験を2019年12月に開始
	TAK-676	STING アゴニスト	オンコロジー	全身性静脈内投与でのPh1試験開始	H1 →	治験届 (IND) が受理され、2020年度上期に最初の患者登録が予定
	TAK-748	第IX因子遺伝子治療	希少疾患	血友病BでのPh1試験開始	H2 →	2020年度上期の予定
	TAK-101/ TAK-062	免疫寛容誘導/ グルテン分解酵素	消化器系疾患	セリアック病でのPOC検証試験データ読み出し	H1 ✓	TAK-101 および TAK-062 はともにPOCを達成。TAK-101のデータは欧州消化器病週間 (JEG Week) 2019にて発表された。当社はTAK-101に対してオプション権を行使し、PvP Biologics (incl. TAK-062)を買収
その他	TAK-426	ジカウイルスワクチン	ワクチン	ジカウイルスワクチンとしての早期POC検証試験データ読み出し	H2 ✓	
	TAK-823 (alisertib)	オーロラ キナーゼ阻害薬	オンコロジー	フロントライン急性骨髄性白血病 (AML) でのPh3試験開始	H2 →	外部化によるバリュークリエーションを模索中

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。全てのタイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。  
POC : Proof of Concept. 疾患名の略語用語集は参考資料をご参照ください。



# パンデミックによる潜在的遅延の可能性を認識しつつも 2020年度における主要な目標達成に向けた推進を継続

	作用機序	疾患/事業領域	予定されるイベント <sup>1</sup>	20年度	
ウェブ1	TAK-788 (mobocertinib)	EGFR/HER2 チロシンキナーゼ阻害薬	オンコロジー	EGFR exon20挿入変異を有する非小細胞肺癌 米国申請	H2
	TAK-007	CD19 CAR-NK	オンコロジー	MDアンダーソンがんセンターにおいて既製化された (off-the-shelf) 凍結保存製品の第一被験者への投与開始	H2
	TAK-620	CMVプロテインキナーゼ阻害薬	希少疾患	移植を受けた治療抵抗性/難治性サイトメガロウイルス感染症 303 Ph3試験データ読み出し	H2
	TAK-609	イズロン酸-2-スルファターゼ補充 (髄腔内投与)	希少疾患	ハンター症候群 (認知障害) 米国申請	H2
	TAK-935	CH24H阻害薬	ニューロサイエンス	レノックス・ガストー症候群 (ELEKTRA試験) POC検証試験データ読み出し	H1
	TAK-994	オレキシン2Rアゴニスト	ニューロサイエンス	ドラベ症候群 (ELEKTRA試験) POC検証試験データ読み出し	H1
	TAK-721	粘膜付着性局所 コルチコステロイド	消化器系疾患	複合性局所疼痛症候群 (CRPS) POC検証試験データ読み出し	H1
	TAK-994	オレキシン2Rアゴニスト	ニューロサイエンス	TAK-994 経口剤 POC検証試験データ読み出し	H2
	TAK-721	粘膜付着性局所 コルチコステロイド	消化器系疾患	好酸球性食道炎 米国申請	H1
	CoVIg-19	高度免疫グロブリン	血漿分画製剤	COVID-19患者を対象とする申請が可能な臨床試験開始	H1
ウェブ2	TAK-003	デング熱ワクチン	ワクチン	COVID-19に対する最初の主要な承認取得	H2
	TAK-003	デング熱ワクチン	ワクチン	感染流行地域においてデング熱ワクチンとして申請	H2
	TAK-676	STINGアゴニスト	オンコロジー	腫瘍内投与 Ph1試験開始	H1
	TAK-605	腫瘍溶解性ウイルス	オンコロジー	全身性静脈内投与 Ph1試験開始	H1
	TAK-102	GPC3 CAR-T	オンコロジー	腫瘍内投与 Ph1試験開始	H1
	CD19-1XX CAR-T	CD19 CAR-T	オンコロジー	Ph1試験開始	H1
GDX012	γδ T細胞療法	オンコロジー	Ph1試験開始	H2	
TAK-062	グルテン分解酵素	消化器系疾患	セリアック病 Ph2試験開始	H2	

\*1. タイムラインは現在想定しているものであり、COVID-19による遅延により変更の可能性があります。  
表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。疾患名の略語用語集は参考資料をご参照ください。



# 2020年度に予定される承認済医薬品における主要な開発イベント

	品目	予定されるイベント <sup>1</sup>	20年度
オンコロジー	ALUNBRIG	ALK陽性非小細胞肺癌（フロントライン適応）米国承認	H1
	ICLUSIG	慢性期慢性骨髄性白血病（CP-CML）を対象とする用量設定試験（OPTIC試験）データ 米国申請	H2
希少疾患	VONVENDI	フォン・ヴィレブランド病の予防 米国申請	H2
	TAKHZYRO	ブラジキニン介在性血管性浮腫 申請が可能な臨床試験開始	H1
	NATPARA	将来的な供給再開および時期についてFDAと合意	H2
消化器系疾患	ALOFISEL	コンプレックスクリプトグランデュラ痔瘻 申請が可能な臨床試験開始	H2
	ENTYVIO	潰瘍性大腸炎およびクローン病 皮下投与製剤 欧州承認	H1 ✓
	GATTEX	短腸症候群 日本申請	H2
中国で予定される申請・承認	ADCETRIS	再発・難治性のホジキンリンパ腫および未分化大細胞リンパ腫 承認	H1
	REPLAGAL	ファブリー病 承認	H2
	VPRIV	ゴーシェ病 承認	H2
	TAKHZYRO	遺伝性血管性浮腫 承認	H2
	ALUNBRIG	ALK陽性非小細胞肺癌（フロントライン適応）申請	H2

\*1. タイムラインは現在想定しているものであり、COVID-19による遅延により変更の可能性があります。表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。疾患名の略語用語集は参考資料をご参照ください。



## 2019年度に示した目標の遂行 ウェーブ1プログラムの短期間での成長を計画

- 新候補物質の承認の可能性
- グローバルブランドの拡張の可能性
- 地域ブランドへの拡張の可能性

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
✓	ENTYVIO	IV CD, JP IV UC/CD, CN	ALUNBRIG	1L NSCLC, US, EU 2L NSCLC, JP	TAKHZYRO	HAE, JP
✓	GATTEX	Pediatric, US	ENTYVIO	sc UC/CD EU sc UC JP; sc UC US <sup>2</sup>	ALUNBRIG	1L NSCLC, CN 2L NSCLC, CN
✓	NINLARO	NDMM SCT, JP	TAKHZYRO	HAE, CN	NINLARO	NDMM nSCT, JP
✓	TRINTELLIX	MDD, JP	VIPRIV	Gaucher Disease, CN	ALUNBRIG	H2H alectinib, US
✓	VONVENDI	VWD, JP	BUCCOLAM	Status epilepticus, JP	ICLUSIG	1L Ph+ ALL, EU, JP
✓	ADCETRIS	FL PTCL, JP R/R HL/ALCL peds, JP	ICLUSIG	CML, US	GATTEX	SBS, JP
✓	cabozantinib	1L, 2L RCC, JP	FIRAZYR	HAE, CN	ICLUSIG	1L Ph+ ALL, US
✓	vonoprazan	L-ASA, JP Reflux Esophagitis, CN	REPLAGAL	Fabry Disease, CN	cabozantinib	1L RCC, JP
			niraparib	Ovarian cancer, JP	vonoprazan	OD ARD, JP Erosive Esophagitis mt., CN
			ADCETRIS	FL PTCL, EU R/R HL, R/R ALCL, CN	ADCETRIS	CTCL, CN
			cabozantinib	HCC, JP	VONVENDI	Prophyl, US, EU
			TAK-609	Hunter CNS (IT)	TAK-003	Dengue vaccine
			TAK-721	Eosinophilic Esophagitis <sup>1</sup>	maribavir	CMV transplant
			CoVig-19	COVID-19	mobocertinib	2L NSCLC exon 20 <sup>3</sup>
			ALUNBRIG	1L NSCLC, US, EU 2L NSCLC, JP	TAK-788	2L NSCLC exon 20 <sup>3</sup>
			ENTYVIO	sc UC/CD EU sc UC JP; sc UC US <sup>2</sup>	TAK-007	Hematologic malignancies
			TAKHZYRO	HAE, CN	TAK-611	MLD (IT)
			VIPRIV	Gaucher Disease, CN	TAK-935	DEE <sup>4</sup>
			BUCCOLAM	Status epilepticus, JP	mobocertinib	1L NSCLC exon 20 <sup>5,6</sup>
			ICLUSIG	CML, US	TAK-788	1L NSCLC exon 20 <sup>5,6</sup>
			FIRAZYR	HAE, CN	TAK-755	cTTP <sup>2</sup>
			REPLAGAL	Fabry Disease, CN	NINLARO	NDMM nSCT & SCT, US, EU
			niraparib	Ovarian cancer, JP	ENTYVIO	GvHD, EU
			ADCETRIS	FL PTCL, EU R/R HL, R/R ALCL, CN	ALOFISEL	CPF, US
			cabozantinib	HCC, JP	niraparib	Prostate Cancer, JP
			TAK-609	Hunter CNS (IT)	cabozantinib	NSCLC, JP
			TAK-003	Dengue vaccine	VONVENDI	Prophyl, JP
			maribavir	CMV transplant	Orexin 2R agonist	Narcolepsy T1
			mobocertinib	2L NSCLC exon 20 <sup>3</sup>	pevonedistat	AML <sup>5</sup>
			TAK-788	2L NSCLC exon 20 <sup>3</sup>	TAK-924	AML <sup>5</sup>
			TAK-007	Hematologic malignancies	TAKHZYRO	BMA, US
			TAK-611	MLD (IT)	NINLARO	NDMM nSCT, CN
			TAK-935	DEE <sup>4</sup>		
			mobocertinib	1L NSCLC exon 20 <sup>5,6</sup>		
			TAK-788	1L NSCLC exon 20 <sup>5,6</sup>		
			TAK-755	cTTP <sup>2</sup>		
			NINLARO	NDMM nSCT & SCT, US, EU		
			ENTYVIO	GvHD, EU		
			ALOFISEL	CPF, US		
			niraparib	Prostate Cancer, JP		
			cabozantinib	NSCLC, JP		
			VONVENDI	Prophyl, JP		
			Orexin 2R agonist	Narcolepsy T1		
			pevonedistat	AML <sup>5</sup>		
			TAK-924	AML <sup>5</sup>		
			TAKHZYRO	BMA, US		
			NINLARO	NDMM nSCT, CN		

\*1. 中国承認は2023年を予定  
\*2. 潰瘍性大腸炎に対する皮下投与製剤の米国承認はCRL（審査完了通知）の内容の解決時期による  
\*3. 欧州、中国での承認は2022年

\*4. 中国承認予想は2024年  
\*5. 現在未承認品目の新たに予想される適応症  
\*6. 欧州、日本、中国での承認予想は2024年

\*7. クローン病に対する申請および承認の時期は潰瘍性大腸炎の承認時期による  
\*8. 2023年度のGATTEX中国を削除  
2019年度に承認達成  
承認目標時期は2020年5月13日時点での現在のデータに基づく見込みであり、今後変更の可能性はある





# 強固な 財務プロファイル



コスタ・サルウコス  
チーフフィナンシャルオフィサー

01.

Introduction &  
ビジネスエリアの  
フォーカス

02.

R&D  
エンジン

03.

強固な  
財務プロファイル

04.

Closing  
Remarks

05.

質疑応答

## 財務目標に向けた進捗

### 業績目標の 達成

- ☑ 主要な5つのビジネスエリア・コストシナジー・営業経費効率化による力強い2019年度業績

### シナジー・ 利益率

- ☑ 2020年3月までに年間換算で11億米ドルのコストシナジーを加速して認識、コストシナジー目標を20億米ドルから23億米ドルへ増加し、業界大手の利益水準へ

### 強固な財務

- ☑ 財務上のコミットメントを満たす、120億米ドルを超える流動性<sup>1</sup>および健全なキャッシュフローの見通し

### ポートフォリオ へのフォーカス

- ☑ 2019年4月から現在までに、最大77億米ドルとなる5つのノン・コア資産の売却合意について公表、ノン・コア資産売却は100億米ドルの目標に向けて継続

### 急速な レバレッジ低下

- ☑ 純有利子負債/調整後EBITDA<sup>2</sup>は4.7倍から2020年3月末時点で3.8倍へ減少；2022年3月末から2024年3月末までに2倍とした目標を確認

### 成長見通し

- ☑ 成長モメンタムは2020年度も継続し、中期的に加速へ

\*1. 2020年3月31日時点の現金および現金同等物（6,376億円）に、7,000億円のコミットメントラインを加えたものと定義。米ドルでの表記は1米ドル1109円で換算した参考値。  
\*2. 調整表は79-80ページをご参照下さい。

## 資産売却・レバレッジ低下・コストシナジーにおいて優れた進捗と同時に 2019年度マネジメントガイダンスを達成

	当初ガイダンス (2019年5月14日) <sup>4</sup>	修正ガイダンス (2020年2月4日)	2019年度 結果
実質的な売上収益成長率 <sup>1</sup>	横ばいから僅かに増加	横ばいから僅かに増加	+1.6% <input checked="" type="checkbox"/>
実質的なCORE営業利益 <sup>2</sup> 率 <sup>3</sup>	20%台前半	20%台後半	28.9% <input checked="" type="checkbox"/>
実質的なCORE EPS <sup>3</sup>	350-370 円	385-405 円	395 yen <input checked="" type="checkbox"/>

### 財務コミットメントに対して優れた進捗

- 2019年4月から現在までに、最大77億米ドルとなる5つのノン・コア資産の売却合意について公表
- 潤沢なフリー・キャッシュ・フローは配当金支払い・金利支払を十分賄い、負債早期返済を可能に
- コストシナジーの加速により力強い利益率を実現。2019年度は税引き前11億米ドル（年間換算）を達成

\*1. 2019年度の実質ベースの成長率は、対2018年度のpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。

\*2. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は58ページをご参照下さい。

\*3. 調整表は70ページをご参照下さい。

\*4. Velcadeについて、米国において静脈投与および皮下投与と同等性のある競合品が2019年度に追加で発売されないというシナリオに基づいたもの。

36



## 主要な5つのビジネスエリア・コストシナジー・営業経費効率化による 力強い2019年度業績

### 2019年度連結業績（サマリー）

(億円)	財務ベース		CORE <sup>1</sup>		実質ベース
	2019年度	対前年同期	2019年度	対前年同期	
売上収益	32,912	+56.9%	32,912	+56.9%	+1.6% (pro-forma成長率) <sup>2</sup>
営業利益	1,004	-57.8%	9,622	+109.5%	
営業利益率	3.1%	-8.3pp	29.2%	+7.3pp	28.9%
当期利益	442	-67.3%	6,022	+87.4%	
EPS (円)	28 yen	-79.8%	387 yen	+52 yen	395 yen
フリー・キャッシュ・フロー <sup>3</sup>	9,680	+156.0%			

\*1. 定義は58ページ、調整表は70、75ページをご参照下さい。

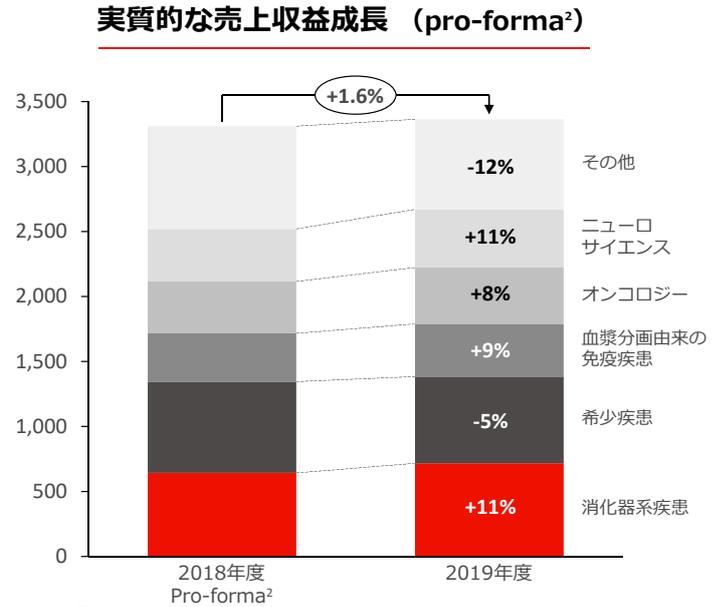
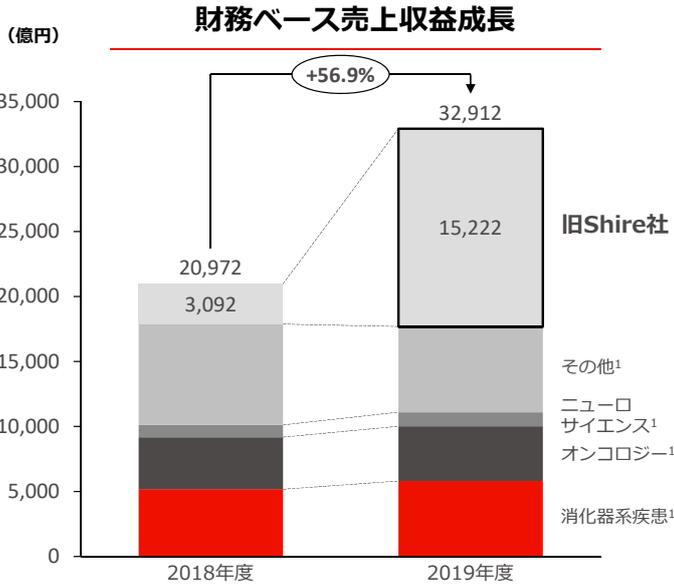
\*2. 2019年度の実質ベースの成長率は、対2018年度のpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。調整表は68ページをご参照下さい。

\*3. 調整表は78ページをご参照下さい。

37



**2019年度財務ベース売上収益は旧Shire社連結で+56.9%、5つの主要なビジネスエリアにおける売上収益の増加は「その他」製品群の減少で相殺され、実質的な売上収益（PRO-FORMA）は+1.6%**



注：財務ベース売上収益および成長率はIFRSに基づき、実質的な売上収益成長は実質ベースのpro-forma成長を示す。

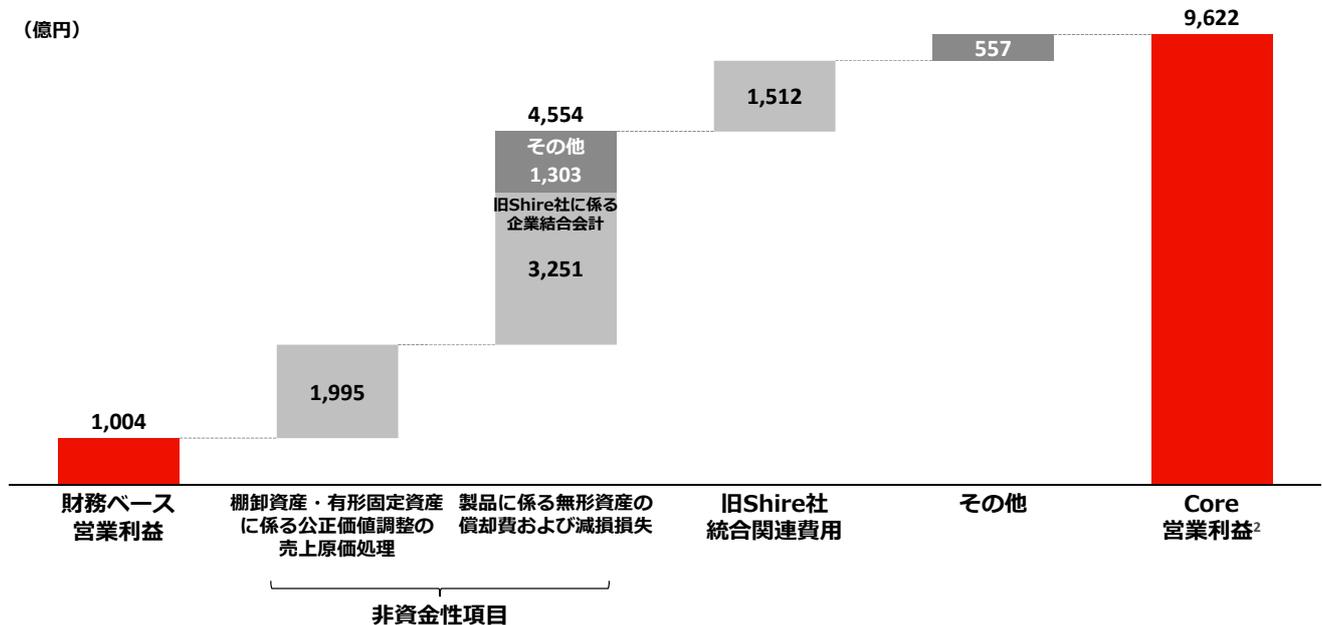
\*1. 旧武田薬品のみ売上収益を表示、旧Shire社買収により獲得した製品を除く。

\*2. 対前年の変化は、対2018年度の実質ベースのpro-forma成長率。2018年度 pro-formaは、2018年度（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算し米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。



**力強いCore営業利益は、非資金性の企業結合会計上の費用およびその他の買収関連費用を含めた項目を調整したもの**

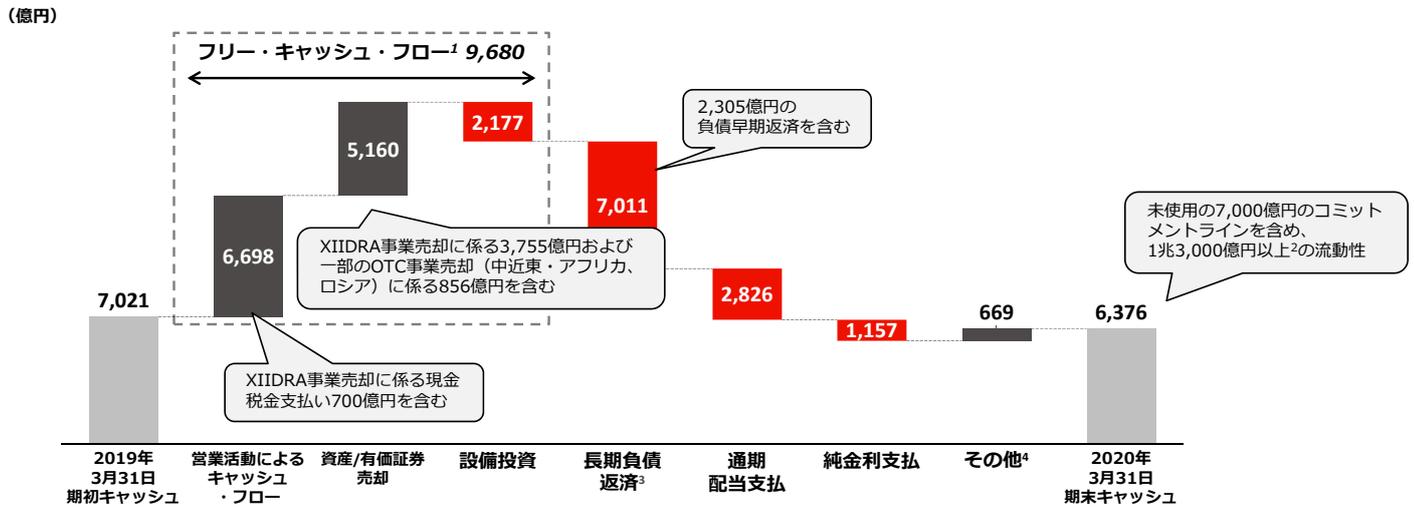
**財務ベース営業利益からCore営業利益への調整¹**



\*1. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は58ページ、調整表は70ページをご参照下さい。



# 2019年度は、潤沢なフリー・キャッシュ・フローが 通期配当金支払いおよび金利支払を十分賄い、早期の負債返済を可能に

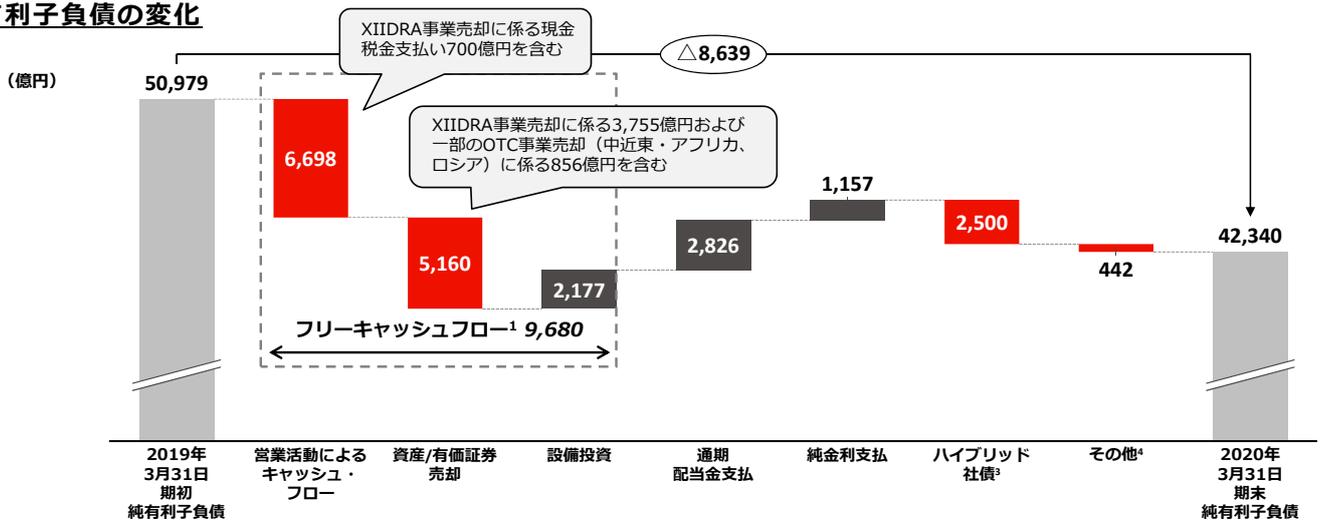


- \*1. 調整表は78ページをご参照下さい。
- \*2. 2020年3月31日時点の現金および現金同等物（6,376億円）に、7,000億円のコミットメントラインを加えたものと定義。
- \*3. 負債返済の項目はキャッシュ支払金額を記載。
- \*4. 「その他」の項目は為替影響、リースによる支出、投資の取得による支出、短期借入れ金の純増減額、条件付対価支払いを含む。



# 純有利子負債/調整後EBITDAが4.7倍から3.8倍へと急速にレバレッジが低下

## 純有利子負債の変化



純有利子負債/  
調整後EBITDA<sup>2</sup>

4.7倍

3.8倍

- \*1. 調整表は78ページをご参照下さい。
- \*2. 「調整後EBITDA」は、主に非資金性の項目、一過性費用を調整したもの。調整後EBITDA及び純有利子負債調整表に関する定義は59ページ、調整表は79-80ページをご参照下さい。期初および期末の純有利子負債は12ヶ月の平均レートで計算されたもの。
- \*3. 2019年6月に5,000億円のハイブリッド社債を発行し、既存のシニア短期ローンを借り換えたことで旧Shire社買収の資金調達のパーマネント化を完了。純有利子負債は格付け機関から認定される50%の資本性（2,500億円）を含む。
- \*4. 負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整は、負債償却、円貨換算に係る為替影響を含む。



# 「ONE TAKEDA」としての事業運営：重要な人材・拠点・運営の統合完了

## ノン・コア資産売却は、100億米ドルの目標に向けて順調に進捗

- ☑ XIIDRA、中近東・アフリカ（NEMEA）ならびにロシア/CISにおける一部の一般用医薬品、ノン・コア資産の売却が完了
- ☑ ラテンアメリカおよび欧州における一部の一般用医薬品、ノン・コア資産の売却合意について公表
- ☑ さらなる資産売却に向けた取り組みを継続する
- 欧州委員会による独占禁止法上の懸念が生じた結果、Ethicon社とTACHOSILの売却合意の終結で合意、TACHOSILの売却機会を継続して模索

## 2021年度終了までに20億米ドルとしていたシナジー目標を23億米ドルへ引き上げ

- ☑ コストシナジー・営業経費の進捗管理を行うプラットフォームにおいて、目標に向けた確実な遂行
- ☑ コストシナジーは当初計画より早く実現
- 3億米ドルのコストシナジーの増加分は、中国での成長・血漿分画製剤・研究開発に再投資する予定

CIS: Commonwealth of Independent States (独立国家共同体)

\*1. 年間の税引前コストシナジー（年間換算）。コストシナジーの前提となるベースラインの詳細については、2018年5月に公表したRule 2.7の68-69ページに記載の「Bases of Belief for the Quantified Financial Benefits Statement ([リンク](#))」をご参照下さい。

42



# 100億米ドルのノン・コア資産売却目標に向けて進捗中 不動産および有価証券の売却によるキャッシュを創出

## ノン・コア資産売却 (2019年4月からの公表)

譲渡完了

XIIDRA	最大 53億米ドル	☑
中近東・アフリカ	2億米ドル	☑
ロシア/CIS	6億6,000万米ドル	☑
ラテンアメリカ	8億2,500万米ドル	
欧州	最大 6億7,000万米ドル	
<b>TOTAL</b>	最大 <b>77億米ドル</b>	

一部の一般用医薬品及びノン・コア資産のポートフォリオ

## 不動産および有価証券の売却<sup>1</sup>

2019年度実績	5億6,900万米ドル
2020年度目標	7億米ドル以上

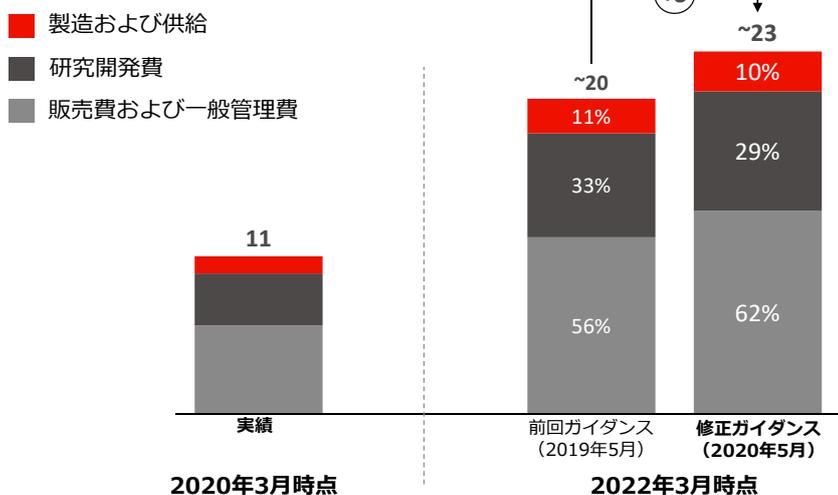
43

\*1. 1米ドル109円で算出。



# 販売費および一般管理費の効率化により、コストシナジーの目標を20億米ドルから23億米ドルへ増加

年間コストシナジーの展開（億米ドル）<sup>1</sup>



## シナジー目標の増加

- タケダビジネスソリューションズ（TBS）によって可能となった、合理化された販売費および一般管理費が主に貢献
- コストシナジーによって追加創出された300百万米ドルは、中国における成長・血漿分画製剤・研究開発に再投資される予定

## 想定よりも早いコストシナジーの実現

- 2020年3月までに、年間換算で11億米ドルのコストシナジーを達成し、力強い2019年度の利益率を実現
- 20億米ドルの当初目標に対して、2020年度末までに90%以上となる予定（当初計画は70%）

## 統合費用は変更なし

- 一過性の統合費用目標は2022年3月までに30億米ドルで変更なし、2020年3月時点で18.5億米ドルを支出
- 契約条件等についての交渉は想定よりも進捗しており、追加費用なしのシナジーを見込む

一過性の統合費用（累積） **18.5億米ドル**  
（2018-2019年度 年間実績）

**30億米ドル**  
（ガイダンス変更なし）

\*1. 継続する年間の税引前コストシナジー（年間換算）。コストシナジーの前提となるベースラインの詳細については、2018年5月に公表したRule 2.7の68-69ページに記載の「Bases of Belief for the Quantified Financial Benefits Statement (リンク)」をご参照下さい。



# コストシナジーおよび営業経費のプラットフォームにより、早期のシナジー実現とシナジー目標の増加を可能に

## シナジーパッケージKPIレポート



## 10のコストパッケージでコストシナジー・営業経費効率化を管理

- サプライヤー上位43社を集めたパートナー・バリュー・サミット2019にて購買の節約を実施、100社以上を集めた完全バーチャル形式でのパートナー・バリュー・サミット2020の実施を計画中
- タケダビジネスソリューションズ（TBS）は規模を活かして最適化を実現
  - 既存の5ロボットに加え、新規10ロボットによる自動化Center of Excellenceの規模拡大で、契約・請求・会計作業などの自動化を促進
  - 電子化可能な25,000サプライヤーや電子請求書の適用が44%まで増加
  - 米国および欧州に、TBSの統合拠点を設置

## 販売および一般管理費のシナジー創出

### 報酬・福利厚生

- 事業の混乱を最小限とした従業員の統合を迅速に実行、2020年3月までに99.6%のポジションを最終化

### 施設および関連サービス

- ハブ拠点の連結が完了し、67ヶ国の営業所についても88%（146施設中128施設）が決定済み
- 買収後に24拠点を売却、Deerfieldキャンパスおよび不動産を1億1,500万米ドルで売却

### トラベル

- 代理店を60社から3社に削減
- 再交渉された航空運賃や優先のホテルといった調和のとれたトラベルポリシー

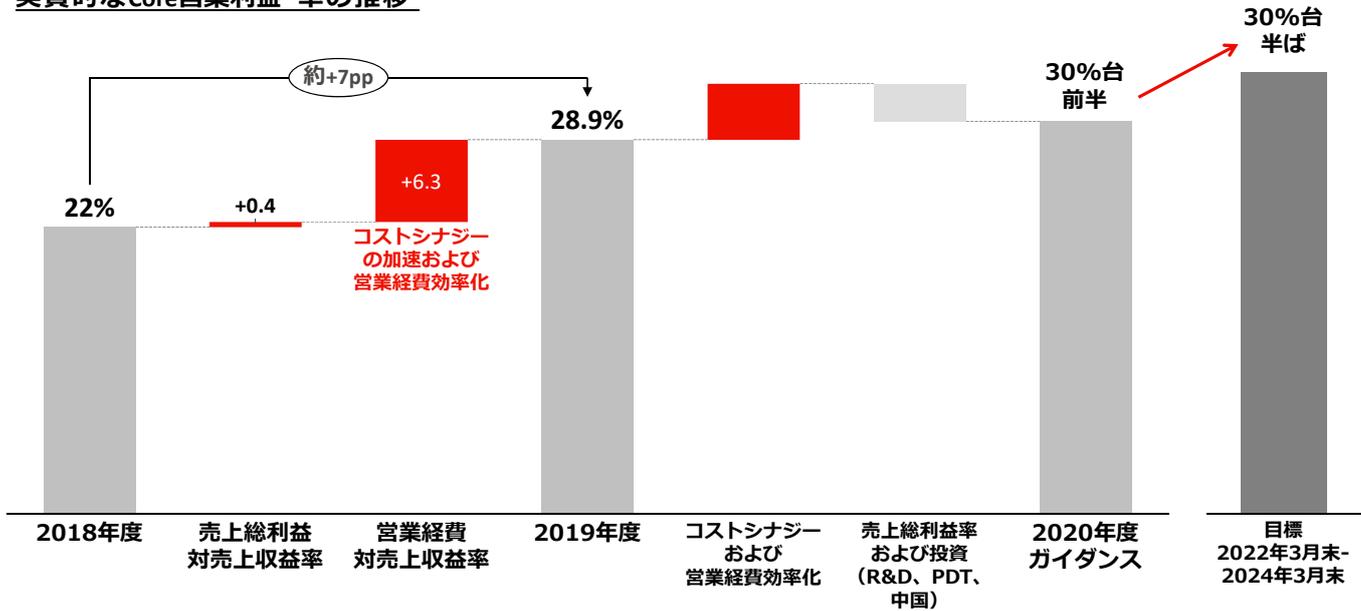
### テクノロジー

- グローバル標準プロセス・システムをサポートするための20の統合基幹プロジェクト
- 11ヶ国におけるグローバルビジネスプロセスのための統合されたOne Takeda ERP
- デジタル生産性ワークスペースの統合（eメール、チャット、カレンダー）の68%が完了

ERP：エンタープライズ・リソース・プランニング

# コストシナジーおよび営業経費効率化が利益率目標に向けて寄与

## 実質的なCore営業利益<sup>1</sup>率の推移<sup>2</sup>



\*1. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は58ページをご参照下さい。  
 \*2. 調整表は70、75ページをご参照下さい。



# 2020年度も成長モメンタム継続を見込む

(億円)	2019年度	2020年度予想	実質ベース <sup>3</sup> (マネジメントガイダンス)
売上収益	32,912	32,500	一桁台前半の成長率 (%)
財務ベースの営業利益	1,004	3,550	
CORE営業利益 <sup>1</sup>	9,622	9,840	一桁台後半の成長率 (%)
CORE営業利益 <sup>1</sup> 率	29.2%	30.3%	30%台前半
財務ベース EPS (円)	28	39	
CORE EPS <sup>2</sup> (円)	387	420	10%台前半の成長率 (%)
1株当たり配当金 (円)	180	180	

### 2020年度ガイダンスにおけるその他の重要な仮定:

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的な流行拡大に伴い、当社の事業活動は前述の通り様々に影響を受けているものの、現時点までに業績に対する重大な影響は生じておりません。当社は、COVID-19は2020年度の当社業績に対して重大な影響を及ぼすことはない現時点で入手可能な情報に基づき考えており、当社の2020年度業績予想はこの考え方を反映しています。しかしながら、COVID-19を取り巻く状況は引き続き非常に流動的であり、新規または追加的な流行拡大や、主要市場におけるロックダウンや屋内退避命令の新規の措置や延長、その他政府による対策など、2020年度中の進展によっては、当社製品の需要減少やサプライチェーンに関連する問題の発生、または臨床試験の大幅な遅延など当社事業に深刻な影響を与える可能性があります。このような事態が生じた場合、当社事業や経営成績、財政状態に追加的な影響が及び、また、当社の2020年度業績は予想から大きく乖離する可能性があります。
- 「ベルケイド」については、2020年度において、505(b)2申請に基づく皮下投与の新たな競合品の米国上市を想定しておりません。
- 事業等の売却については、公表済みの案件以外の将来の売却可能性の影響を考慮しておりません。

\*1. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は58ページ、過去の調整表は70ページ、2020年度の業績予想の調整表は83ページをご参照下さい。

\*2. 過去の調整表は70ページをご参照下さい。

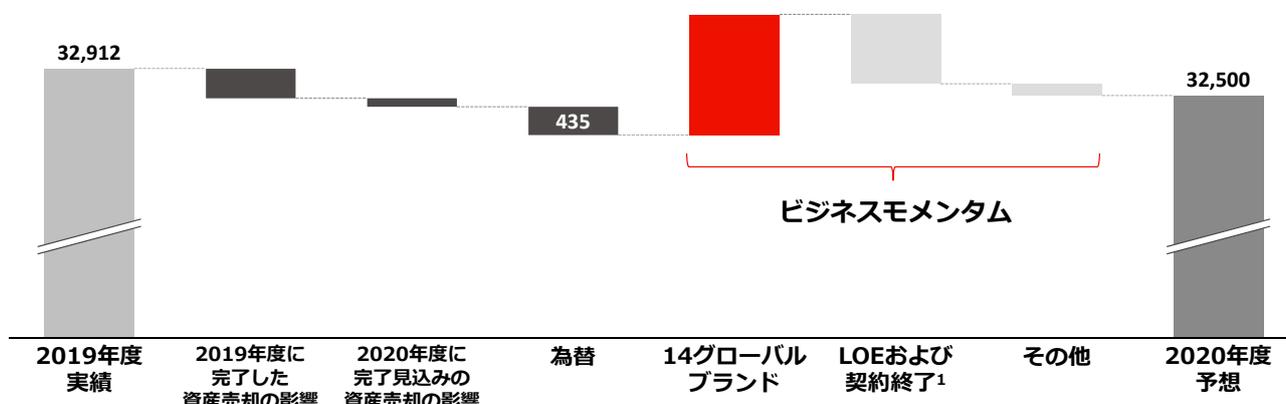
\*3. 実質的な成長率は2019年度内に売却された資産と2020年度に売却完了する見込みの公表済みの資産売却を調整し、固定為替レート（2019年度期中平均レート）を適用。調整表は58ページをご参照下さい。実質的な計数値は、マネジメント業績評価指標（KPIs）のベースとなる。より詳細については86-87ページをご参照下さい。



## 2020年度の財務ベース売上収益予想は、資産売却および為替の影響を受けるグローバルブランド14製品がビジネスモメンタムを牽引する見込み

(億円)

### 2020年度財務ベース売上収益予想



注：上記は参考図。

\*1. エンブレルのコ・プロモーション終了（2019年11月末）および2019年度とそれ以前の独占販売期間終了製品（ULORIC、FIRAZYR、欧州におけるVELCADEなど）を含む

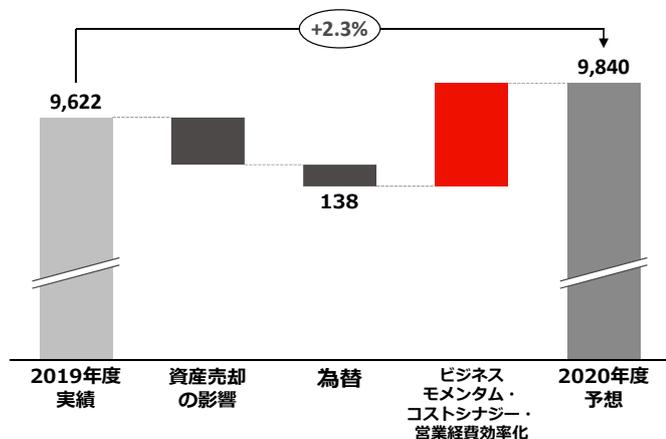
48



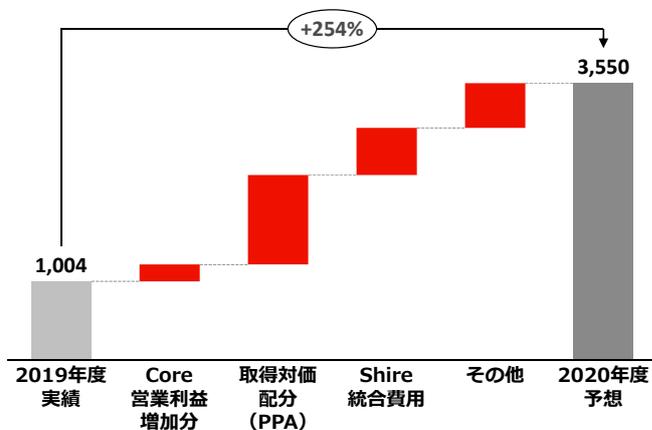
## 2020年度Core営業利益は、ビジネスモメンタム・コストシナジー・営業経費効率化によって牽引、さらに財務ベース営業利益は、買収関連費用の低下により大幅な成長を見込む

(億円)

### 2020年度Core営業利益<sup>2</sup>予想



### 2020年度財務ベース営業利益<sup>2</sup>予想



注：上記は参考図。2020年度業績予想の重要な前提については82ページをご参照下さい。

\*1. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は58ページ、過去の調整表は70ページ、2020年度の業績予想の調整表は82ページをご参照下さい。

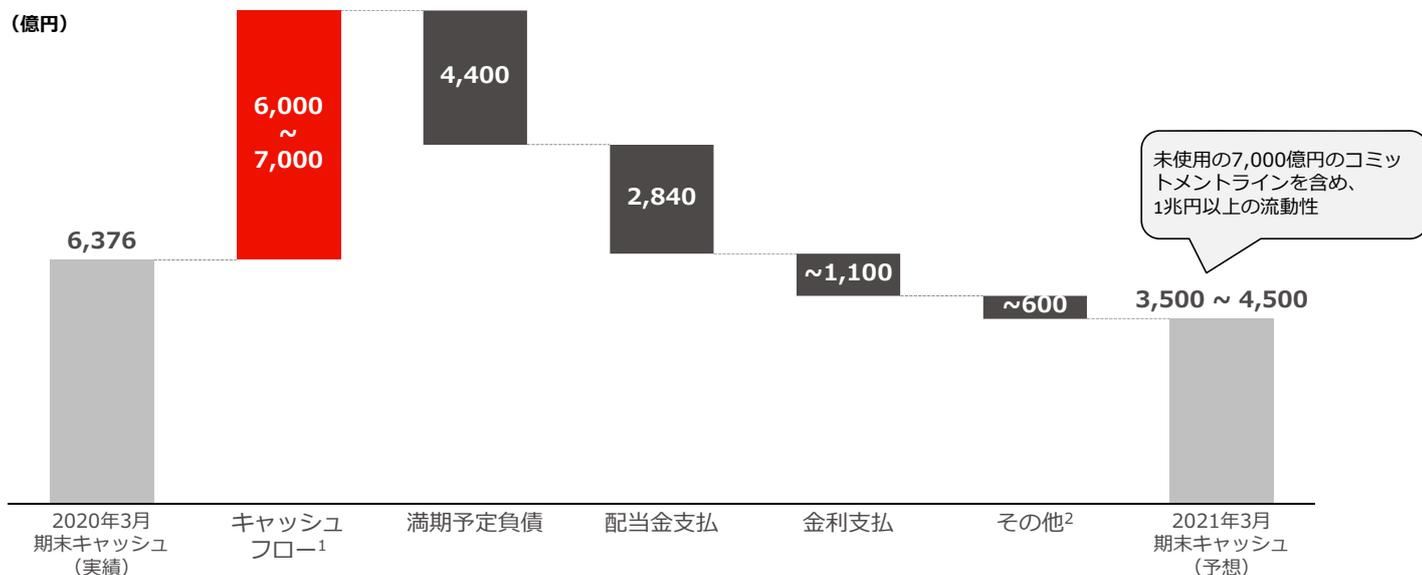
\*2. 調整表は82ページをご参照下さい。

49



# 2020年度キャッシュ・フロー予想：強力な流動性プロファイルを維持

## 2020年度キャッシュフロー予測



- \*1. キャッシュフロー = (営業活動によるキャッシュフロー) + (公表した売却資産) - (設備投資)。  
2020年度のキャッシュフロー予想にはすでに公表したものの以外の更なる資産売却の影響は含まれていない。
- \*2. その他の項目は条件付対価支払い、リースにかかる費用、キャッシュに与える為替影響を含む。

50



## 2020年度業績予想

(億円)	2019年度 実績	2020年度 予想	対前年度		増減 <sup>2</sup>
<b>売上収益</b>	32,912	32,500	△412	△1.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業等の売却影響と為替影響がビジネスモメンタムを相殺</li> <li>Shire社に係る企業結合会計影響である棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理金額が減少 (2019年度: 1,910億円、2020年度: 857億円) することから、売上総利益率は対前年度増加見込</li> <li>コストシナジーを享受しつつもWave1&amp;2のパイプラインに引き続き投資</li> <li>2019年度実績と同様の規模の数字を想定</li> <li>公表済み案件の事業譲渡益を含む</li> <li>主にShire社統合費用の減少による増益影響</li> </ul>
売上原価	△10,898	N/D <sup>1</sup>			
研究開発費	△4,924	△4,470	+454	+9.2%	
製品に係る無形資産償却費	△4,121	△4,070	+51	+1.2%	
製品に係る無形資産減損損失	△433	△500	△67	△15.4%	
その他の営業収益	602	580	△22	△3.7%	
その他の営業費用	△2,487	△1,430	+1,057	+42.5%	
<b>営業利益</b>	1,004	3,550	+2,546	+253.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に支払利息の減少による増益影響</li> </ul>
金融費用	△1,650	△1,530	+120	+7.3%	
<b>税引前当期利益</b>	△608	2,000	+2,608	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>スイスの税制改正に伴い計上した繰延税金便益や事業構造再編費用の計上に伴う便益の一時的・一過性影響がなくなることにより高実効税率</li> </ul>
<b>当期利益</b>	442	600	+158	+35.6%	
EPS (円)	28 円	39 円	+10 円	+35.6%	
<b>Core営業利益<sup>3</sup></b>	9,622	9,840	+218	+2.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモメンタム、費用の効率化とコストシナジーを反映</li> </ul>
円/ドル	109 円	109 円	△0 円		
円/ユーロ	121 円	120 円	△1 円		

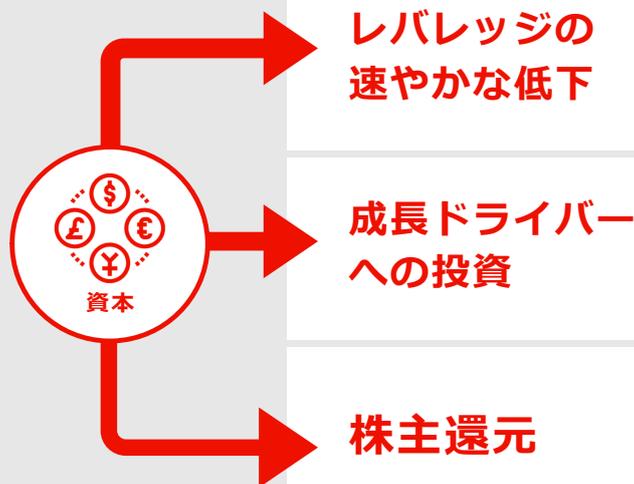
- \*1. 非開示 (Not Disclosed)  
\*2. 詳細は82ページをご参照下さい。  
\*3. 調整表は83ページをご参照下さい。

51



# 患者さんおよび株主に対する価値を最大化するための資本配分

- ビジネスモメンタム、コストシナジー、ノン・コア資産売却による力強いキャッシュフローで、財務上のコミットメントを達成、患者さんおよび株主に対する価値を最大化するための資本配分を実施



- 2022年3月末から2024年3月末までに、純有利子負債／調整後EBITDA倍率を2倍へ
- 投資適格格付の維持にコミット
- 研究開発における戦略的な投資（社内および提携）
- 中国市場を含む新製品上市
- 血漿分画製剤事業のプレゼンス拡大
- 成長モメンタムは2020年度も継続し、中期的に加速へ
- 1株当たり年間配当金180円の確立された配当方針

## CLOSING REMARKS



クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO

01.

Introduction & ビジネスエリアのフォーカス

02.

R&D エンジン

03.

強固な財務プロフィール

04.

Closing Remarks

05.

質疑応答



# 質疑応答



クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO



アンドリュー・プランプ  
リサーチ&開発  
プレジデント



コスタ・サルウコス  
チーフ フィナンシャル  
オフィサー



岩崎 真人  
ジャパン ファーマ  
ビジネス ユニット  
プレジデント



ジュリー・キム  
プラスマ デイライブド  
セラピーズ ビジネスユニット  
プレジデント

01.

Introduction &  
ビジネスエリアの  
フォーカス

02.

R&D  
エンジン

03.

強固な  
財務プロファイル

04.

Closing  
Remarks

05.

質疑応答



# APPENDIX



## 投資家向け開催予定イベント

オンコロジー  
投資家向けコール

6月8日（月）

8:00am-9:00am（米国東海岸時間）  
9:00pm-10:00pm（日本時間）

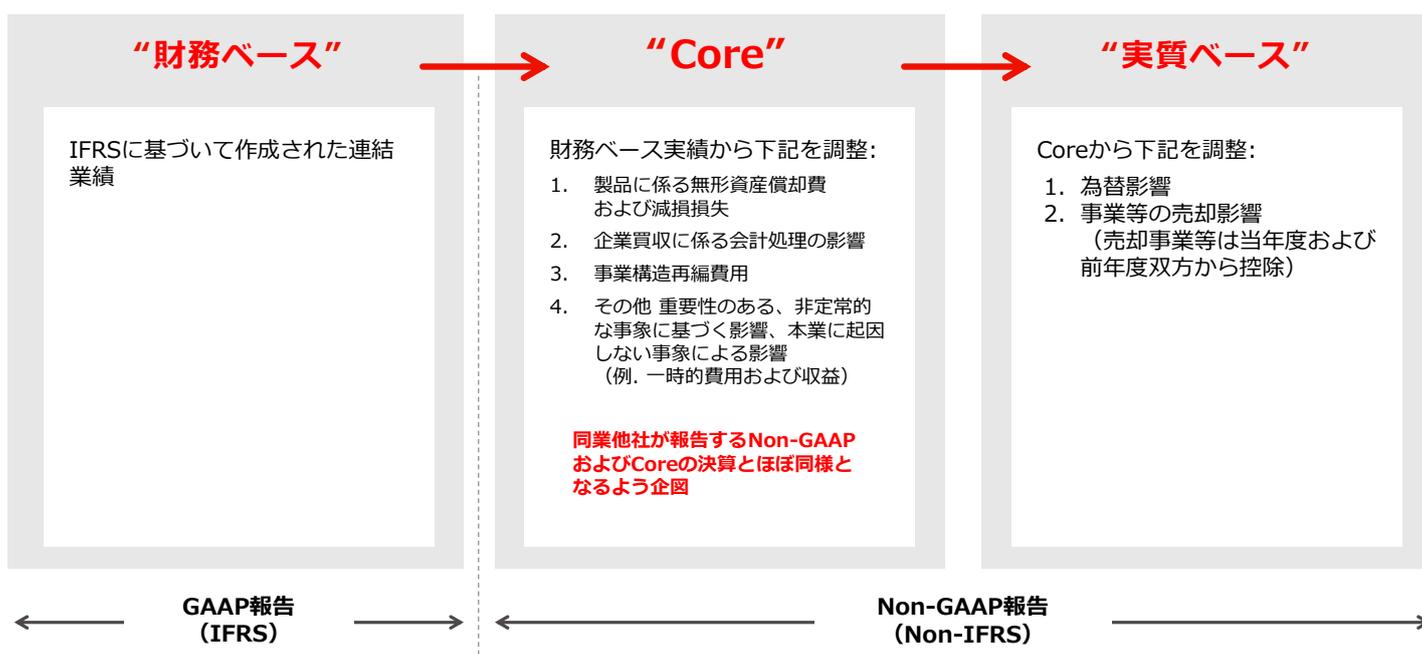
定時株主総会

6月24日（水）

2019年度第1四半期決算発表  
カンファレンスコール

7月31日（金）

## タケダの開示指標（定義変更なし）



## 「Core」と「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「実質的な成長」(Underlying Growth)の概念を採用しております。

「実質的な成長」は、当期と前年同期(四半期もしくは年間)の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定期的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「実質的な成長」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考え、「Underlying Revenue Growth」(実質的な売上収益の成長)、「Underlying Core Operating Profit Growth」(実質的なCore営業利益の成長)および「Underlying Core EPS Growth」(実質的なCore EPSの成長)を重要な財務指標としています。

なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

**実質的な売上収益**は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定期的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

**実質的なCore営業利益**は、為替レートを一定として、Core営業利益\*に、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

Core営業利益\*は、純利益から、法人所得税費用、持分法にかかる投資損益、金融損益、その他の営業収益・その他の営業費用、製品に係る無形資産償却費や減損損失、および企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など本業と関連のないその他の項目を控除して算出します。

\*2019年度第1四半期より“Core Earnings”を“Core営業利益”に名称変更しました。前述の通り、定義に変更はありません。

**実質的なCore EPS**の算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore営業利益の算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定期的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動(時間的価値の変動を含む)影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自社株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

## 「EBITDA」と「調整後EBITDA」の定義

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻りに用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難に思われる事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠けます。

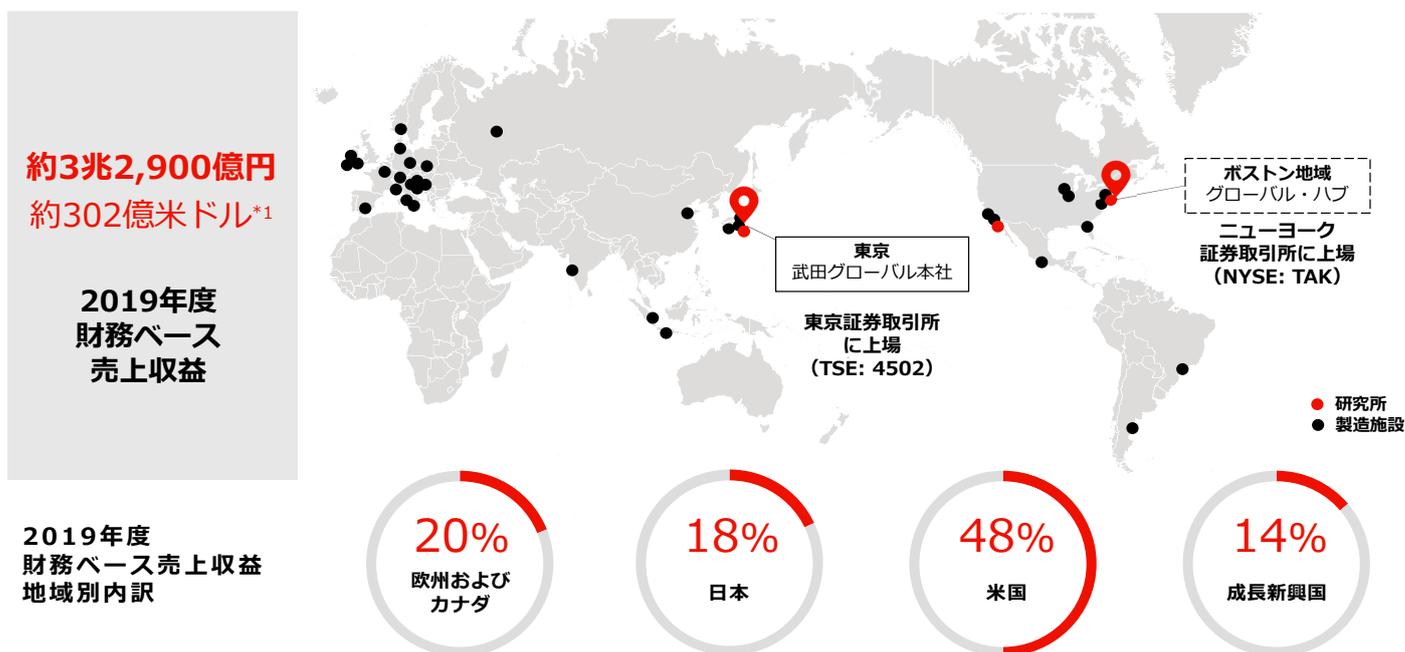
EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項、例えば、事業売却の影響等を必ずしも除外していません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益(損失)と同視してはならず、また、これらに代わるものとしてとらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

### EBITDA及び調整後EBITDA

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の純利益を指します。また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用(減価償却費及び償却費を除く)、金融収益・費用(純支払利息を除く)、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、本プレゼンテーションのスライド80をご参照ください。

# 競争力につながるスケールでバランスのとれた地理的拠点



60 \*1. 米ドル建て売上収益は1米ドル109円で換算した参考値



## 2019年度 財務ベース年間実績

(億円)	2018年度	2019年度	対前年度	
売上収益	20,972	32,912	+11,940	+56.9%
売上原価	△6,517	△10,898	△4,380	△67.2%
売上総利益	14,455	22,014	+7,559	+52.3%
対売上収益比率	68.9%	66.9%		△2.0pp
販売費及び一般管理費	△7,176	△9,647	△2,471	△34.4%
研究開発費	△3,683	△4,924	△1,241	△33.7%
製品に係る無形資産償却費	△1,700	△4,121	△2,421	△142.5%
製品に係る無形資産減損損失	△86	△433	△347	△401.4%
その他の営業収益	1,599	602	△997	△62.3%
その他の営業費用	△1,032	△2,487	△1,455	△141.1%
営業利益	2,377	1,004	△1,373	△57.8%
対売上収益比率	11.3%	3.1%		△8.3pp
金融収益	168	278	+110	+65.2%
金融費用	△833	△1,650	△817	△98.1%
持分法による投資損益	△436	△240	+196	+45.0%
税引前当期利益	1,276	△608	△1,884	-
当期利益(親会社の所有者持分)	1,352	442	△910	△67.3%
非支配持分	△1	0	+2	-
当期利益	1,351	443	△908	△67.2%
基本的EPS(円)	141円	28円	△112円	△79.8%



## 2019年度 第1四半期（4-6月）の財務ベース実績

(億円)	2018年度 第1四半期 (4-6月)	2019年度 第1四半期 <sup>*1</sup> (4-6月)	対前年同期	
売上収益	4,498	8,491	+3,993	+88.8%
売上原価	△1,206	△2,918	△1,712	△142.0%
売上総利益	3,292	5,573	+2,281	+69.3%
対売上収益比率	73.2%	65.6%		△7.6pp
販売費及び一般管理費	△1,450	△2,392	△942	△64.9%
研究開発費	△720	△1,169	△449	△62.4%
製品に係る無形資産償却費	△237	△1,056	△820	△346.4%
製品に係る無形資産減損損失	△4	△161	△158	-
その他の営業収益	93	67	△26	△28.2%
その他の営業費用	14	△410	△423	-
営業利益	989	452	△537	△54.3%
対売上収益比率	22.0%	5.3%		△16.7pp
金融収益	62	87	+24	+39.2%
金融費用	△148	△461	△313	△211.4%
持分法による投資損益	36	23	△12	△34.2%
税引前当期利益	939	101	△837	△89.2%
当期利益（親会社の所有者持分）	782	70	△712	△91.0%
非支配持分	△2	0	+2	-
当期利益	781	70	△710	△91.0%
基本的EPS（円）	100円	5円	△96円	△95.5%

<sup>\*1</sup> 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2019年度第1四半期の損益計算書を過及修正しております。



## 2019年度 第2四半期（7-9月）の財務ベース実績

(億円)	2018年度 第2四半期 (7-9月)	2019年度 第2四半期 <sup>*1</sup> (7-9月)	対前年同期	
売上収益	4,308	8,110	+3,803	+88.3%
売上原価	△1,108	△2,702	△1,595	△144.0%
売上総利益	3,200	5,408	+2,208	+69.0%
対売上収益比率	74.3%	66.7%		△7.6pp
販売費及び一般管理費	△1,488	△2,233	△745	△50.1%
研究開発費	△795	△1,135	△340	△42.8%
製品に係る無形資産償却費	△240	△1,023	△783	△326.5%
製品に係る無形資産減損損失	△3	△12	△9	△315.2%
その他の営業収益	230	47	△184	△79.8%
その他の営業費用	△175	△414	△239	△136.6%
営業利益	731	639	△92	△12.6%
対売上収益比率	17.0%	7.9%		△9.1pp
金融収益	25	87	+62	+252.5%
金融費用	△91	△532	△441	△484.1%
持分法による投資損益	5	17	+12	+258.2%
税引前当期利益	669	211	△459	△68.5%
当期利益（親会社の所有者持分）	484	677	+193	+39.9%
非支配持分	△0	1	+1	-
当期利益	484	678	+194	+40.1%
基本的EPS（円）	62円	43円	△18円	△29.6%

<sup>\*1</sup> 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2019年度第2四半期の損益計算書を過及修正しております。



## 2019年度 第3四半期（10-12月）の財務ベース実績

(億円)	2018年度 第3四半期 (10-12月)	2019年度 第3四半期 (10-12月)	対前年同期	
売上収益	4,994	8,593	+3,599	+72.1%
売上原価	△1,385	△2,796	△1,411	△101.8%
売上総利益	3,609	5,797	+2,189	+60.6%
対売上収益比率	72.3%	67.5%		△4.8pp
販売費及び一般管理費	△1,539	△2,492	△953	△61.9%
研究開発費	△775	△1,227	△452	△58.4%
製品に係る無形資産償却費	△242	△1,020	△778	△321.3%
製品に係る無形資産減損損失	△69	△19	+50	+72.6%
その他の営業収益	293	185	△109	△37.0%
その他の営業費用	△153	△689	△536	△350.0%
営業利益	1,125	535	△590	△52.4%
対売上収益比率	22.5%	6.2%		△16.3pp
金融収益	54	342	+288	+533.2%
金融費用	△223	△437	△215	△96.3%
持分法による投資損益	△480	△191	+289	+60.1%
税引前当期利益	476	248	△228	△47.8%
当期利益（親会社の所有者持分）	378	△322	△700	-
非支配持分	1	1	+0	+17.1%
当期利益	379	△321	△700	-
基本的EPS（円）	48 円	△21 円	△69 円	-

## 2019年度 第4四半期（1-3月）の財務ベース実績

(億円)	2018年度 第4四半期 <sup>*1</sup> (1-3月)	2019年度 第4四半期 (1-3月)	対前年同期	
売上収益	7,172	7,717	+545	+7.6%
売上原価	△2,819	△2,482	+337	+12.0%
売上総利益	4,353	5,235	+882	+20.3%
対売上収益比率	60.7%	67.8%		+7.1pp
販売費及び一般管理費	△2,699	△2,531	+169	+6.2%
研究開発費	△1,394	△1,393	+1	+0.1%
製品に係る無形資産償却費	△981	△1,021	△40	△4.1%
製品に係る無形資産減損損失	△11	△241	△230	-
その他の営業収益	982	304	△678	△69.0%
その他の営業費用	△717	△974	△257	△35.9%
営業利益	△467	△621	△154	△33.0%
対売上収益比率	△6.5%	△8.1%		△1.5pp
金融収益	74	140	+66	+89.5%
金融費用	△418	△598	△180	△43.1%
持分法による投資損益	3	△89	△92	-
税引前当期利益	△808	△1,168	△360	△44.6%
当期利益（親会社の所有者持分）	△292	17	+310	-
非支配持分	△0	△2	△1	△412.6%
当期利益	△293	16	+308	-
基本的EPS（円）	△21 円	1 円	23 円	-

<sup>\*1</sup> 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けした負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2018年度第4四半期の損益計算書を過及修正しております。

## 2019年度 Coreベース年間実績

### 2019年度年間実績 (CORE) <sup>1</sup>

(億円)	2018年度	2019年度	対前年比
<b>売上収益</b>	<b>20,972</b>	<b>32,912</b>	<b>+56.9%</b>
売上総利益率	72.4%	72.9%	+0.5pp
営業経費	-10,600	-14,387	-35.7%
対売上収益比率	-50.5%	-43.7%	+6.8pp
<b>CORE営業利益<sup>2</sup></b>	<b>4,593</b>	<b>9,622</b>	<b>+109.5%</b>
Core営業利益率	21.9%	29.2%	+7.3pp
税率	24.8%	27.8%	+3.0pp
<b>CORE当期利益</b>	<b>3,214</b>	<b>6,022</b>	<b>+87.4%</b>
<b>CORE EPS (JPY)</b>	<b>334 yen</b>	<b>387 yen</b>	<b>+53 yen</b>

\*1. 調整表は70ページをご参照下さい。

\*2. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は58ページ、調整表は70ページをご参照下さい。

66



## 2019年度 第4四半期 (1-3月) のCoreベース実績

### 2019年度 第4四半期 (1-3月) 実績 (CORE) <sup>1</sup>

(億円)	2018年度 第4四半期 (1-3月)	2019年度 第4四半期 (1-3月)	対前年比
<b>売上収益</b>	<b>7,172</b>	<b>7,717</b>	<b>+7.6%</b>
売上総利益率	71.0%	71.8%	+0.8pp
営業経費	-3,944	-3,841	+2.6%
対売上収益比率	55.0%	49.8%	+5.2pp
<b>CORE営業利益<sup>2</sup></b>	<b>1,148</b>	<b>1,700</b>	<b>+48.1%</b>
Core営業利益率	16.0%	22.0%	+6.0pp
税率	32.6%	69.1%	+36.5pp
<b>CORE当期利益</b>	<b>585</b>	<b>420</b>	<b>-28.2%</b>
<b>CORE EPS (JPY)</b>	<b>43 yen</b>	<b>27 yen</b>	<b>-16 yen</b>

\*1. 調整表は74、76ページをご参照下さい。

\*2. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は58ページ、調整表は74ページをご参照下さい。

67



## 財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整 2019年度（対前年度）

(億円)	2018年度*1	2019年度	対前年度	
<b>売上収益</b>	<b>20,972</b>	<b>32,912</b>	<b>+11,940</b>	<b>+56.9%</b>
旧Shire社の売上収益	13,018	—		
<b>売上収益（試算ベース）</b>	<b>33,990</b>	<b>32,912</b>	<b>△1,079</b>	<b>△3.2%</b>
為替影響*2				+3.6pp
事業等の売却影響*3				+1.2pp
テックプール社およびマルチラブ社				+0.2pp
XIIDRAおよびTACHOSIL				+1.0pp
その他				△0.0pp
<b>実質的な売上収益の成長</b>				<b>+1.6%</b>

\*1 2018年度の売上収益は試算ベースであり、旧Shire社の2018年4月から買収完了日までの売上収益を米国会計基準から国際会計基準に組み替えた上（重要な差異は認められなかった）、当社による買収以前の2018年8月に売却した旧Shire社のオンコロジー事業を除き、当該期間の実勢レートを適用して算出した売上収益を合計したものです。

\*2 為替影響は、2018年度および2019年度に、2018年度の実勢レート（1ドル=111円、1ユーロ=129円）を適用して算出しています。

\*3 事業等の売却影響では、主に、2018年度に売却した連結子会社であったテックプール社およびマルチラブ社にかかる2018年度の売上収益、2019年7月に売却が完了したXIIDRAとTACHOSILにかかる2018年度および2019年度の売上収益を控除して調整しています。（TACHOSILについては2019年5月にEthicon社に当製品を売却することについて合意、2020年4月に売却契約は解除されましたが、引き続き、売却戦略・レバレッジ低下戦略の一環として売却の機会を検討していくことから調整しています。当製品に係る資産負債については引き続き売却目的で保有する処分グループに分類しております。）

## 財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整 2019年度第4四半期（1-3月）（対前年同期）

(億円)	2018年度*1 第4四半期 (1-3月)	2019年度 第4四半期 (1-3月)	対前年同期	
<b>売上収益</b>	<b>7,172</b>	<b>7,717</b>	<b>+545</b>	<b>+7.6%</b>
旧Shire社の売上収益	103	—		
<b>売上収益（試算ベース）</b>	<b>7,275</b>	<b>7,717</b>	<b>+442</b>	<b>+6.1%</b>
為替影響*2				+4.7pp
事業等の売却影響*3				+1.2pp
テックプール社およびマルチラブ社				—
XIIDRAおよびTACHOSIL				+1.0pp
その他				+0.1pp
<b>実質的な売上収益の成長</b>				<b>+11.9%</b>

\*1 2018年度第4四半期の売上収益は試算ベースであり、旧Shire社の2019年1月の売上収益を米国会計基準から国際会計基準に組み替えた上（重要な差異は認められなかった）、当該期間の実勢レートを適用して算出した売上収益を合計したものです。

\*2 為替影響は、2018年度および2019年度に、2018年度の実勢レート（1ドル=111円、1ユーロ=129円）を適用して算出しています。

\*3 事業等の売却影響では、主に、XIIDRAにかかる2018年度第4四半期の売上収益と、TACHOSILにかかる2018年度第4四半期および2019年度第4四半期の売上収益を控除して調整しています（TACHOSILについては2019年5月にEthicon社に当製品を売却することについて合意、2020年4月に売却契約は解除されましたが、引き続き、売却戦略・レバレッジ低下戦略の一環として売却の機会を検討していくことから調整しています。当製品に係る資産負債については引き続き売却目的で保有する処分グループに分類しております）。2018年度第4四半期のテックプール社とマルチラブ社、並びに2019年度第4四半期のXIIDRAについては、いずれも当該期間の期初までに売却が完了し売上収益が計上されなかったことから調整していません。

## 2019年度 財務ベースからCore/Underlying Coreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	スイス税制改革	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	32,912								32,912	1,024	△305	
売上原価	△10,898				1,995				△8,903	△279	50	
売上総利益	22,014				1,995				24,009	744	△255	
販売費及び一般管理費	△9,647			55	24				△9,568	△290		
研究開発費	△4,924			104	1				△4,819	△89		
製品に係る無形資産償却費	△4,121	870			3,251				-			
製品に係る無形資産減損損失	△433	433							-			
その他の営業収益	602		△460				△142		-			
その他の営業費用	△2,487		1,133	1,354					-			
営業利益	1,004	1,303	673	1,512	5,271		△142		9,622	365	△255	
対売上収益比率	3.1%								29.2%			28.9%
金融損益	△1,372			71	144			△201	△1,357	53		
持分法損益	△240							322	82	△0		
税引前当期利益	△608	1,303	673	1,583	5,416		180	△201	8,347	418	△255	
法人所得税費用	1,050	△317	△108	△292	△982	△946	△55	△675	△2,324	△100	59	
非支配持分	△0								△0			
当期利益	442	987	565	1,291	4,434	△946	125	△876	6,022	318	△196	
EPS (円)	28								387	21	△13	395
株式数 (百万)	1,557								1,557			1,555

70



## 2019年度第1四半期 (4-6月) 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース*1	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響*1	スイス税制改革	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	8,491								8,491	117	△172	
売上原価	△2,918				757				△2,161	△30	20	
売上総利益	5,573				757				6,330	87	△152	
販売費及び一般管理費	△2,392			8	11				△2,374	△30		
研究開発費	△1,169			43	△1				△1,127	△5		
製品に係る無形資産償却費	△1,056	230			826				-			
製品に係る無形資産減損損失	△161	161							-			
その他の営業収益	67		△60				△7		-			
その他の営業費用	△410		94	316					-			
営業利益	452	391	34	367	1,592		△7		2,830	51	△152	
対売上収益比率	5.3%								33.3%			32.4%
金融損益	△374				45			3	△326	5		
持分法損益	23							6	30	6		
税引前当期利益	101	391	34	367	1,637		△1	3	2,533	62	△152	
法人所得税費用	△31	△71	△81	△70	△296			0	△549	△10	37	
非支配持分	△0								△0	△0		
当期利益	70	320	△47	297	1,341		△0	3	1,984	52	△115	
EPS (円)	5								128	3	△7	124
株式数 (百万)	1,556								1,556			1,555

\*1 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2019年度第1四半期の損益計算書を遡り修正しております。

71



## 2019年度第2四半期（7-9月） 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース*1	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響*1	スイス税制改革	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	8,110								8,110	325	△40	
売上原価	△2,702				518				△2,184	△80	9	
売上総利益	5,408				518				5,927	245	△31	
販売費及び一般管理費	△2,233			6	12				△2,214	△90		
研究開発費	△1,135			8	1				△1,126	△24		
製品に係る無形資産償却費	△1,023	220			803				-			
製品に係る無形資産減損損失	△12	12							-			
その他の営業収益	47		△40				△7		-			
その他の営業費用	△414		142	272					-			
営業利益	639	232	102	286	1,334		△7		2,586	131	△31	
対売上収益比率	7.9%								31.9%			32.0%
金融損益	△445			35	39			△6	△377	37		
持分法損益	17							6	23	△6		
税引前当期利益	211	232	102	321	1,373		△1	△6	2,232	162	△31	
法人所得税費用	467	△39	91	△62	△213	△563	0	△93	△411	△4	7	
非支配持分	△1								△1	△0		
当期利益	677	193	194	259	1,160	△563	△0	△99	1,820	158	△24	
EPS (円)	43								117	10	△2	126
株式数 (百万)	1,558								1,558			1,555

\*1 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2019年度第2四半期の損益計算書を過及修正しております。



## 2019年度第3四半期（10-12月） 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	スイス税制改革	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	8,593								8,593	310	△50	
売上原価	△2,796				414				△2,382	△121	10	
売上総利益	5,797				414				6,212	189	△40	
販売費及び一般管理費	△2,492			2	10				△2,480	△95		
研究開発費	△1,227			△1	2				△1,226	△27		
製品に係る無形資産償却費	△1,020	211			810				-			
製品に係る無形資産減損損失	△19	19							-			
その他の営業収益	185		△77				△108		-			
その他の営業費用	△689		393	296					-			
営業利益	535	230	316	297	1,236		△108		2,505	67	△40	
対売上収益比率	6.2%								29.2%			28.6%
金融損益	△95			11	30			△239	△293	△18		
持分法損益	△191							218	14	△0		
税引前当期利益	248	230	316	308	1,266		109	△252	2,226	49	△40	
法人所得税費用	△569	△93	△42	△54	△153	△103	△33	620	△427	△103	8	
非支配持分	△1								△1	△0		
当期利益	△322	136	274	254	1,113	△103	76	369	1,798	△54	△31	
EPS (円)	△21								115	△3	△2	110
株式数 (百万)	1,558								1,558			1,555



## 2019年度第4四半期（1-3月） 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	スイス税制改革	テバ合併会社に係る会計処理影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	7,717								7,717	272	△43	
売上原価	△2,482				306				△2,176	△48	10	
売上総利益	5,235				306				5,541	224	△33	
販売費及び一般管理費	△2,531			39	△9				△2,501	△76		
研究開発費	△1,393			53	0				△1,340	△32		
製品に係る無形資産償却費	△1,021	209			812				-			
製品に係る無形資産減損損失	△241	241							-			
その他の営業収益	304		△271					△34	-			
その他の営業費用	△974		504	471					-			
営業利益	△621	450	233	563	1,109			△34	1,700	116	△33	
対売上収益比率	-8.1%								22.0%			22.4%
金融損益	△457			25	30				△361	29		
持分法損益	△89							104	15	△0		
税引前当期利益	△1,168	450	233	588	1,139			71	1,355	145	△33	
法人所得税費用	1,183	△113	△82	△107	△319	△280	△22	△1,197	△937	17	7	
非支配持分	2								2	0		
当期利益	17	338	151	480	820	△280	49	△1,155	420	162	△26	
EPS (円)	1								27	10	△2	36
株式数 (百万)	1,558								1,558			1,555

74



## 2018年度 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース *1	財務ベースからCoreへの調整							Core
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響*1	テバ合併会社に係る企業結合会計影響	投資有価証券/固定資産売却益	その他	
売上収益	20,972								20,972
売上原価	△6,517				738				△5,780
売上総利益	14,455				738				15,193
販売費及び一般管理費	△7,176			238	6				△6,932
研究開発費	△3,683			16					△3,667
製品に係る無形資産償却費	△1,700	955			745				-
製品に係る無形資産減損損失	△86	86							-
その他の営業収益	1,599		△409				△304	△886	-
その他の営業費用	△1,032		435	596					-
営業利益	2,377	1,041	26	850	1,489	△304	△886		4,593
対売上収益比率	11.3%								21.9%
金融損益	△664			181	40				△420
持分法損益	△436						535		98
税引前当期利益	1,276	1,041	26	1,031	1,529	231	△886	23	4,272
法人所得税費用	75	△255	△40	△123	△373	△71	302	△575	△1,059
非支配持分	1								1
当期利益	1,352	786	△14	908	1,156	160	△584	△552	3,214
EPS (円)	141								334
株式数 (百万)	961								961

\*1 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2018年度の損益計算書を過及修正しております。

75



## 2018年度第4四半期（1-3月） 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース *1	財務ベースからCoreへの調整							Core
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業収益/ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	シャイアー社 に係る 企業結合会計 影響*1	テバ合併会社 に係る 企業結合会計 影響	投資有価証券/ 固定資産 売却益	その他	
売上収益	7,172								7,172
売上原価	△2,819					738			△2,081
売上総利益	4,353					738			5,091
販売費及び一般管理費	△2,699			128		6			△2,565
研究開発費	△1,394			16					△1,378
製品に係る無形資産償却費	△981	236				745			-
製品に係る無形資産減損損失	△11	11							-
その他の営業収益	982		△89				△7	△886	-
その他の営業費用	△717		262	455					-
営業利益	△467	247	172	599	1,489	△7	△886		1,148
対売上収益比率	-6.5%								16.0%
金融損益	△344					40			△297
持分法損益	3						14		17
税引前当期利益	△808	247	172	599	1,529	7	△886	6	868
法人所得税費用	515	△67	△48	△36	△373	△2	302	△575	△283
非支配持分	0								0
当期利益	△292	181	125	563	1,156	5	△584	△568	585
EPS (円)	△21								43
株式数 (百万)	1,362								1,362

\*1 2019年度において当社グループはShire社買収により取得した資産および引き受けた負債について取得対価の配分を完了しました。この結果、2018年度第4四半期の損益計算書を過及修正しております。

## 2018年度 財務ベースから Core/Underlying Core への調整表 (旧武田薬品)

(億円)	財務ベース (注)	財務ベースからCoreへの調整									Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業利益/ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	シャイアー社 に係る 企業結合会計 影響	テバ合併会社 に係る 企業結合会計 影響	その他の 企業結合会計 影響	投資有価証券/ 固定資産 売却益	米国税制改革 による影響	その他		為替影響	事業等の 売却影響	
売上収益	17,880										17,880	△153	△104	
売上原価	△4,764										△4,764	19	23	
売上総利益	13,117										13,117	△134	△81	
販売費及び一般管理費	△6,184			238							△5,947	41	54	
研究開発費	△3,237										△3,237	111	4	
製品等に係る無形資産償却費	△954	954									-			
製品等に係る無形資産減損損失	△87	87									-			
その他の営業利益	1,612		△598					△886		△129	-			
その他の営業費用	△741		365	355						21	-			
営業利益	3,525	1,041	△233	593				△886		△108	3,933	17	△23	
	19.7%										22.0%			22.3%
金融損益	△518			181						23	△314	31	3	
持分法損益	△439					535					96	1	-	
税引前当期利益	2,568	1,041	△233	774		535		△886		△85	3,714	50	△20	
法人所得税費用	△231	△255	50	△157		△164		302		△572	△1,027	△17	8	
非支配持分	1										1	-	△4	
当期利益	2,337	787	△183	616		371		△584		△657	2,688	33	△15	
EPS (円)	243										280			346
株式数 (百万)	961										961			781

注： 旧武田薬品で発生したShire社買収関連費用を含む。

## フリー・キャッシュ・フロー

(億円)	2018年度	2019年度	対前年度	
当期利益	1,351	443	△908	△67.2%
減価償却費、償却費及び減損損失	2,578	6,855	+4,277	
運転資本増減 (△は増加)	209	727	+518	
法人税等の支払額	△449	△2,268	△1,819	
その他	△404	940	+1,344	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,285	6,698	+3,413	+103.9%
有形固定資産の取得による支出	△777	△1,271	△494	
有形固定資産の売却による収入	507	126	△381	
無形資産の取得による支出	△564	△906	△342	
投資の取得による支出	△171	△76	+95	
投資の売却、償還による収入	650	494	△156	
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	851	4,615	+3,764	
フリー・キャッシュ・フロー	3,781	9,680	+5,899	+156.0%

78



## 純有利子負債/調整後EBITDA

### 純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2019年度
現金および現金同等物 <sup>1</sup>	6,376
貸借対照表上の負債簿価	△50,933
ハイブリッド社債の50%資本性認定	2,500
為替調整 <sup>2</sup>	△283
有利子負債 <sup>3</sup>	△48,716
<b>純有利子負債</b>	<b>△42,340</b>
<b>純有利子負債/調整後EBITDA倍率</b>	<b>3.8 x</b>
<b>調整後EBITDA</b>	<b>11,259</b>

### キャッシュの純増減

(億円)	2018年度	2019年度	対前年度	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,285	6,698	+3,413	+103.9%
有形固定資産の取得による支出	△777	△1,271		
有形固定資産の売却による収入	507	126		
無形資産の取得による支出	△564	△906		
投資の取得による支出	△171	△76		
投資の売却、償還による収入	650	494		
事業取得による支出	△29,587	△49		
事業売却による収入	851	4,615		
拘束性預金の払戻による収入	718	-		
短期借入金の純増減額	3,673	△3,512		
長期借入れによる収入	12,155	-		
長期借入金の返済による支出	-	△1,374		
社債の発行による収入	15,804	4,962		
社債の償還による支出	-	△5,636		
利息の支払額	△349	△1,272		
配当金の支払額	△1,430	△2,826		
その他	△377	△406		
現金の増減額 (△は減少)	4,390	△433	△4,824	-

<sup>1</sup> 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含む。

<sup>2</sup> 調整後EBITDA計算と整合させるため、外貨建て負債の換算に用いる為替レートを月末レートから平均レートに変更して調整している。

<sup>3</sup> 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。また、負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整には、負債償却と為替影響を含む。

79



## 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

(億円)	2018年度	2019年度
当期利益	1,351	443
法人所得税費用	△75	△1,050
減価償却費及び償却費	2,477	5,836
純支払利息	416	1,378
EBITDA	4,169	6,607
減損損失	101	1,019
その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）	△586	1,241
金融収益・費用（純支払利息を除く）	249	△6
持分法による投資損益	436	240
その他の調整項目		
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	742	1,910
Shire社買収に係る費用	238	53
その他の費用 <sup>*1</sup>	16	195
調整後EBITDA	5,364	11,259
旧Shire社のNon-GAAP EBITDA <sup>*2</sup>	5,413	N/A
調整後EBITDA（試算ベース） <sup>*3</sup>	10,777	N/A

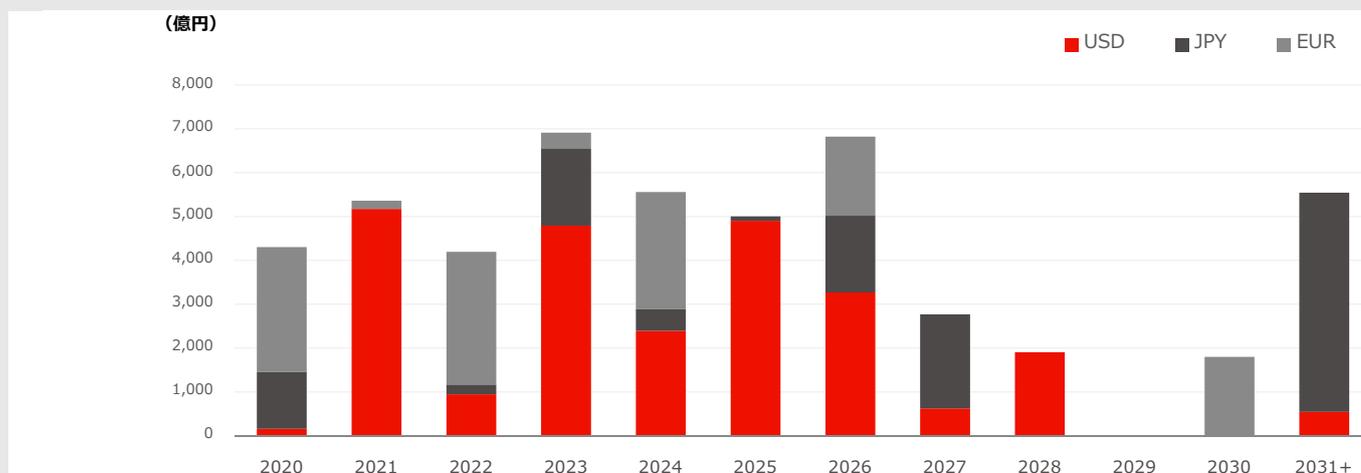
<sup>\*1</sup> 2019年度は、株式報酬にかかる非資金性の費用と売却した製品に係るEBITDAの調整を含みます。

<sup>\*2</sup> 旧Shire社の2018年1月～12月（12ヶ月）のNon GAAP EBITDAから旧Shire社の2018年1月～3月（3ヶ月）のNon GAAP EBITDAを控除し、2018年4月～12月の平均為替レート1米ドル110.8円で換算して算出。

<sup>\*3</sup> 武田薬品と旧Shire社の2018年4月～2019年3月（12ヶ月）の調整後EBITDAの合算。

（注）当社の調整後EBITDA及び旧Shire社のNon-GAAP EBITDAは、（1）当社の業績がIFRSに基づいており、旧Shire社の業績が米国会計基準に基づいていること、及び（2）当社の調整後EBITDAと旧Shire社のNon-GAAP EBITDAの定義が異なることから、直接的に比較可能なものではありません。

## タケダの負債満期プロフィール（暦年）



■ 全有利子負債の加重年間金利率は約2.1%

■ 2031年以降の満期分には、2019年6月に発行した5,000億円分のハイブリッド社債（60年契約満期、5-6年での任意償還権付社債）が含まれている

## 2020年度Core営業利益調整項目、キャッシュ・フロー・ガイダンス、その他見通しの主な前提

### Core営業利益調整項目

(億円)	2019年度 実績	2020年度 予想	対前年度
<b>シャイアー社統合費用</b>			
販売及び一般管理費・研究開発費・R&Dプログラム中止費用等	△158	-	+158
その他の営業費用 - 事業構造再編費用	△1,354	△900	+454
	△1,512	△900	+612
<b>シャイアー社に係る企業結合会計影響</b>			
売上原価 - 棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理	△1,910	△857	+1,053
売上原価 - 有形固定資産の公正価値調整の償却	△85	△20	+65
販売及び一般管理費・研究開発費	△25	7	+32
製品に係る無形資産償却費 - シャイアー社買収関連	△3,251	△3,240	+11
	△5,271	△4,110	+1,161
<b>その他の非資金性の費用</b>			
製品に係る無形資産償却費 - 旧武田薬品関連	△870	△830	+40
製品に係る無形資産減損損失	△433	△500	△67
	△1,303	△1,330	△27
<b>その他の営業収益/費用</b>			
その他の営業収益	602	580	△22
その他の営業費用 - シャイアー社統合費用を除く	△1,133	△530	+603
	△531	50	+581

### キャッシュ・フロー・ガイダンス

(億円)	2019年度 実績	2020年度 予想	対前年度
フリー・キャッシュ・フロー (公表済みの事業売却を含む)	9,680	6,000 ~7,000	△2,680 ~△3,680
資本的支出 (キャッシュ・フロー・ベース)	△2,177	△1,800 ~△2,300	+377 ~△123
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 (製品に係る無形資産償却費を除く)	△1,716	△1,500	+216
調整後EBITDAに対する現金税金の税率 (事業売却を除く)	17.8%	10%台後半~ 20%台前半	N/A
<b>その他見通しの主な前提</b>			
(億円)	2019年度 実績	2020年度 予想	対前年度
<b>金融費用</b>			
支払利息	△1,490	△1,330	+160
その他	△160	△200	△40
	△1,650	△1,530	+120

## 2020年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る 償却費 (旧武田薬品)	無形資産に係る 減損損失	その他の営業 収益/費用	シャイアー社 統合費用	シャイアー社に 係る企業結合 会計影響	
売上収益	32,500						32,500
売上原価						857	
						20	
売上総利益						877	
販売費及び一般管理費						△7	
製品に係る無形資産償却費	△4,070	830				3,240	-
製品に係る無形資産減損損失	△500		500				-
その他の営業収益	580			△580			-
その他の営業費用	△1,430			530	900		-
営業利益	3,550	830	500	△50	900	4,110	9,840

# 為替レートおよび2020年度の為替感応度

(円)

(億円)

平均レート (対円)				2020年4月から2021年3月において 1%円安となった場合の影響			
通貨	2018年度	2019年度	2020年度想定	売上収益	CORE営業利益	営業利益	当期利益
米ドル	111	109	109	+165.4	+68.0	+21.3	+9.0
ユーロ	129	121	120	+42.7	-17.9	-26.4	-19.7
ロシアルーブル	1.7	1.7	1.6	+3.6	+2.3	+1.9	+1.3
中国元	16.5	15.7	15.5	+8.9	+4.9	+4.9	+3.4
ブラジルレアル	29.5	26.9	23.3	+7.1	+4.2	+4.1	+2.8



# 経験豊富で多様性に富んだタケダ・エグゼクティブチーム

日本

 <b>クリストフ・ウェバー</b> 代表取締役社長 CEO	 <b>コスタ・サルウコス</b> チーフ フィナンシャル オフィサー	 <b>岩崎 真人</b> ジャパン ファーマ ビジネスユニット プレジデント	 <b>大藪 貴子</b> チーフ グローバル コーポレート アフェアーズ オフィサー	 <b>中川 仁敬</b> グローバル ジェネラル カウンセル	 <b>パドマ・ ティルヴェンガダム</b> チーフ HR オフィサー	 <b>吉田 未来乃</b> コーポレートストラテジー オフィサー & チーフ オープ スタッフ
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

米国

 <b>アンディー・ ブランブ</b> リサーチ&デベロップメント プレジデント	 <b>ラモナ・セケイラ</b> US ビジネスユニット プレジデント & グローバル ポートフォリオ コマースライゼーション プレジデント	 <b>テレサ・ピテッティ</b> グローバル オンコロジー ビジネスユニット プレジデント	 <b>ラジーヴ・ヴェンカヤ</b> グローバル ワクチン ビジネスユニット プレジデント	 <b>ジェラード・グレコ</b> グローバル クオリティ オフィサー	 <b>マルチェロ・アゴスティ</b> グローバル ビジネスデベロップメント オフィサー
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

スイス

 <b>ジャイルズ・ プラットフォード</b> EUCAN ビジネスユニット プレジデント	 <b>ジュリー・キム</b> プラスマ デライド セラピューティクス ビジネスユニット プレジデント	 <b>トーマス・ウォスノフスキー</b> グローバル マニュファクチャリング & サプライ オフィサー	 <b>ムワナ・ルゴゴ</b> チーフ エシックス & コンプライアンス オフィサー
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

シンガポール

 <b>リカルド・マレック</b> グロス&エマーシング マーケット ビジネスユニット プレジデント
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



# クローバックポリシーおよびマネジメント業績評価指標の詳細

## タケダ クローバックポリシー

- タケダが進めているベスト・イン・クラスのコーポレート・ガバナンスおよび株主との協調に対するコミットメントと一貫して、2020年3月30日にエグゼクティブ報酬の返還に関するポリシー（クローバックポリシー）を当社の報酬委員会が推奨し、取締役会が導入しました。
- 本ポリシーに基づき、決算内容の重大な修正再表示（過去の財務諸表における誤りの訂正を財務諸表に反映すること）または重大な不正行為が発生した場合、独立社外取締役は当社に対し、インセンティブ報酬の返還を要求することができます。返還の対象となり得る報酬は、タケダ・エグゼクティブ・チーム（TET）のメンバー、当社取締役会のメンバーである社内取締役、およびその他独立社外取締役が特定した個人が、決算内容の重大な修正再表示または重大な不正行為が発生した事業年度およびその前の3事業年度において受け取った報酬の全部または一部です。
- 本ポリシーは2020年4月1日に発効し、2020年度の賞与及び長期インセンティブよりその適用対象となり、以後すべての期間において適用されます。

## 2020年度のマネジメント業績評価指標の決定

- 各年度で、当社の報酬委員会および取締役会は賞与（STI）および長期インセンティブプラン（PSU）に使用される年間の業績評価指標（KPI）評価し設定します。
- 当社の賞与および長期インセンティブプランにかかる本KPIは取締役会での承認に先立ち、報酬委員会において慎重に検討されたものです。当社は、本KPIにより、全社を挙げてさらなる成長や収益性の向上、パイプラインの進展、支出管理、株主価値の創出に注力できるものと確信しています。
- 本KPIsはタケダの事業運営計画および外部ガイダンスと関連しています。実質的なKPIsは資産売却や重要なイベントが評価期間にそれぞれのKPIの評価に影響するだろうという見解を反映しており、必要な調整を実施することができます。
- 賞与および長期インセンティブプランの両方のプランは、目標値を上回り株主の皆様に対し良い結果をもたらすことができた場合に、適正に報酬が支給されるよう設計されています。
- 反対に、目標値を達成できなかった場合には、低い報酬額となります。当社の業績が目標値の下限を下回れば、プラン対象者がそのKPIについて受け取る報酬はゼロとなります。本プランにおける報酬額の上限値は目標の200%です。

## 2020年度 マネジメント業績評価指標（KPIs）



### 2020年度 賞与（指標、ウェイト、2019年度と一貫したパフォーマンスレンジ）

指標	根拠	ウェイト	測定	下限	目標	上限
実質的な売上収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>パイプラインの進展・拡大を含む成長の指標であること</li> <li>製薬業界における重要な成功の指標であること</li> </ul>	30%	業績指標の目標達成度	97%	100%	105%
			目標達成度に応じたSTIの比率	40%	100%	200%
実質的なCore営業利益	<ul style="list-style-type: none"> <li>支出の規律徹底を含む利益確保の指標であること</li> <li>シナジー効果を反映できること</li> <li>買収完了後の当社の主要な成功の指標として株主の皆様に対して説明していること</li> </ul>	40%	業績指標の目標達成度	95%	100%	115%
			目標達成度に応じたSTIの比率	50%	100%	200%
実質的なCore EPS	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラン対象者と株主の皆様との利益が合致していること</li> <li>買収完了後の当社の主要な成功の指標として株主の皆様に対して説明していること</li> </ul>	30%	業績指標の目標達成度	95%	100%	115%
			目標達成度に応じたSTIの比率	50%	100%	200%

### 2020年度 長期インセンティブ：パフォーマンス・シェア・ユニット（PSU）（指標、ウェイト、2019年度と一貫したパフォーマンスレンジ）

指標	根拠	ウェイト	測定	下限	目標	上限
3年間の実質的な売上収益の累計	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資家の期待と合致していること</li> <li>持続的な成長とパイプラインの進展・拡大に対してプラン対象者の注力が必要となること</li> <li>製薬業界における重要な成功の指標であること</li> </ul>	25%	業績指標の目標達成度	96%	100%	105%
			目標達成度に応じたPSUの比率	50%	100%	200%
3年終了時点での実質的なCore営業利益率	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象期間における収益の質を計る指標となること</li> <li>力強い収益成長は株主の皆様の高い期待であること</li> </ul>	25%	業績指標の目標達成度	93%	100%	107%
			目標達成度に応じたPSUの比率	50%	100%	200%
3年間のフリー・キャッシュ・フローの累計	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャイアー社買収後のキャッシュの創出および負債低減に対してプラン対象者の注力が必要であること</li> </ul>	25%	業績指標の目標達成度	90%	100%	115%
			目標達成度に応じたPSUの比率	50%	100%	200%
重要な臨床試験の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>革新的な研究開発プログラムの推進を通じた当社全体のパフォーマンスの将来性を反映していること</li> <li>患者さんに対する当社のコミットメントを明示していること</li> </ul>	25%	目標達成度に応じたPSUの比率	0%	100%	200%
3年間のTSR <sup>1</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業績連動型プランによる報酬の支給が株主の皆様と一致していること</li> <li>TSRの絶対値がプラスの場合のみ適用されること</li> </ul>	Modifier +/-20%				

\*1. 業績パフォーマンスを上記の財務的および非財務的な指標にて評価し、2020年度の当社ピアグループ（買収後のセルジーン社を除く）との相対比較により、株主総利回り（TSR）業績を決定します。相対的TSRについては、上下20パーセンテージ・ポイントの範囲内で最終的なLTI支給額を調整することが可能です。当社TSRが他社よりも優れていた場合でも、TSRの絶対値がマイナスである場合には、業績連動の支給要件についてプラスの調整を行うことはありません。2019-2021年度の業績サイクルにおけるTSR同業グループは以下の通り：AbbVie, Amgen, Astellas, AstraZeneca, Bristol-Myers Squibb, Eli Lilly, Gilead Sciences, GlaxoSmithKline, Johnson & Johnson, Merck & Co, Merck Group, Novartis, Pfizer, Roche, Sanofi

# 承認済み医薬品において 2019年度期初に予定されていた目標を力強く推進

	品目	予定されるイベント	19年度	コメント
🔬	ADCETRIS	末梢性T細胞リンパ腫（フロントライン適応）欧州申請（ECHELON-2 試験）	H1	✓ 未治療の全身性未分化大細胞型リンパ腫（sALCL）に対して、2020年4月に欧州医薬品評価委員会（CHMP）から肯定的見解を取得
	ALUNBRIG	ALTA-1L ALK陽性非小細胞肺癌（フロントライン適応）2回目の中間解析	H1	✓ 2回目の中間解析のデータを2019年11月のESMO Asia（欧州臨床腫瘍学アジア大会）で発表、欧州においてALK陽性非小細胞肺癌の一次治療で2020年4月に承認
	Cabozantinib	腎がん（セカンドライン適応）日本承認（日本における初めての承認）	H2	✓ 腎臓がんの一次治療、二次治療の両方において、単剤での承認取得
	NINLARO	アミロイドーシス Ph-3試験 データ読み出し	H1	➡ 主要評価項目を未達成、期待の持てる副次的評価項目データをASH2019で公表
🧬	NINLARO	移植未実施の多発性骨髄腫における維持療法Ph3試験 データ読み出し（TOURMALINE MM4試験）	H2	✓ 主要評価項目である無増悪生存期間（PFS）を達成し、全生存期間（OS）の結果待ち。次の新たなイベント時期は2022年度
	TAKHZYRO	ブラジキニン介在性血管性浮腫 申請を可能とする試験開始	H2	➡ 2020年度上期を予定
🔬	ALOFISEL	クローン病に伴う肛門複雑瘻孔 米国ピボタル試験開始（ADMIRE II 試験）	H1	✓
		クローン病 日本承認	H1	✓
	ENTYVIO	潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤 米国承認	H2	➡ 米国FDAから受領した皮下投与製剤に対するCRL（審査完了報告通知）は、臨床での安全性・有効性データに関連するものではなく、皮下投与製剤のデザインやラベルに関する内容。本CRLの内容の解決に向けて取り組んでおり、2020年前半にタイムラインを更新できることを期待。臨床第3相試験（VISIBLE）の結果を基に、欧州委員会が潰瘍性大腸炎およびクローン病における皮下投与製剤を承認、オーストラリアやカナダでも承認され、日本においてはPMDAとの協議中
		クローン病 皮下投与製剤 米国申請	H2	➡ クローン病における皮下投与製剤の申請は、潰瘍性大腸炎のCRL受領を受けて保留中。臨床第3相試験（VISIBLE2）は主要評価項目を達成。これらのデータは第15回欧州クローン病・大腸炎会議（ECCO）で公表
🧠	GATTEX	短腸症候群 米国承認（小児適応）	H1	✓
	TRINTELLIX	大うつ病 日本承認	H1	✓
🩸	GLASSIA/ ARALAST	a1 アンチトリプシン欠損を伴う肺気腫 ピボタル試験開始	H2	➡ FDAが新しい試験デザインと評価項目について受領

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。全てのタイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。  
疾患名の略語用語集は参考資料をご参照ください。



## 承認済み医薬品プログラムの価値最大化

	臨床第1相試験/臨床第2相試験	臨床第3相試験	申請
🔬 オンコロジー	<ul style="list-style-type: none"> <li>NINLARO* Proteasome inhibitor R/R MM triplet Tx (GL)</li> <li>ALUNBRIG* ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC 2<sup>nd</sup> gen TKI (GL)</li> <li>ICLUSIG* BCR-ABL inhibitor TKI res. chronic phase CML (US)</li> <li>NINLARO* Proteasome inhibitor R/R MM doublet Tx (US, EU)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NINLARO* Proteasome inhibitor ND MM (GL)</li> <li>ALUNBRIG* ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (JP, CN)</li> <li>Cabozantinib Exelixis VEGFR/RET inhibitor 1L RCC combo w/ nivolumab (JP)</li> <li>ICLUSIG* BCR-ABL inhibitor FL Ph+ ALL (US)</li> <li>NINLARO* Proteasome inhibitor Maint. ND MM no SCT (GL)</li> <li>ALUNBRIG* ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC 1<sup>st</sup> 2<sup>nd</sup> with alectinib (GL)</li> <li>NINLARO* Proteasome inhibitor Maint. ND MM post-SCT (US, EU)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADCETRIS* Seattle Genetics CD30 ADC R/R sALCL (CN)</li> <li>ADCETRIS* Seattle Genetics CD30 ADC R/R HL (CN)</li> <li>ALUNBRIG* ALK inhibitor ALK+NSCLC (JP)</li> <li>ALUNBRIG* ALK inhibitor ALK+NSCLC (US)</li> <li>ADCETRIS* Seattle Genetics CD30 ADC 1L PTCL (EU)</li> <li>Cabozantinib Exelixis VEGFR/RET inhibitor 2L HCC (JP)</li> <li>Niraparib GlaxoSmithKline PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer - maint. (JP)</li> <li>Niraparib GlaxoSmithKline PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer - salvage (JP)</li> </ul>
🧬 希少疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>NATPARA PTH replacement Hypothyroidism (JP)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb HAE pediatric (GL)</li> <li>OBIZUR IgGm FVIII replacement CNHAW (US, EU)</li> <li>VONVENDI VWF replacement VWD Prophylaxis</li> <li>TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb HAE (JP)</li> <li>VONVENDI VWF replacement VWD Pediatric</li> <li>ADVNOVATE Pediatric Hema (EU)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb HAE prophylaxis (CN)</li> </ul>
🧠 ニューロサイエンス			<ul style="list-style-type: none"> <li>BUCCOLAM GABA Allosteric Modulator Status Epilepticus (JP)</li> </ul>
🍴 消化器系疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>ENTYVIO* o487 mAb Pediatric UC/CD (GL)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GATTEX GLP-2R agonist Adult-SBS (JP)</li> <li>ALOFISEL* mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD (US, JP)</li> <li>GATTEX GLP-2R agonist Pediatric-SBS (JP)</li> <li>Vonoprazan PCAB Oral disintegrated tablet formulation (JP)</li> <li>ENTYVIO* o487 mAb GvHD Prophylaxis (EU, JP)</li> <li>ENTYVIO* o487 mAb SubQ UC (US, JP)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ENTYVIO* o487 mAb SubQ UC (US, JP)</li> <li>Vonoprazan PCAB Reflux Esophagitis Maintenance (CN)</li> <li>Vonoprazan PCAB Duodenal ulcer (CN)</li> </ul>
🩸 血漿分画製剤		<ul style="list-style-type: none"> <li>CINRYZE PD C1 Esterase inhibitor HAE prophylaxis (JP)</li> <li>HYQVIA Holozyme IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase CIDP</li> <li>HYQVIA Holozyme IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase Pediatric PID (US)</li> </ul>	

2020年5月13日時点のパイプライン。地域の略語: GL = グローバル(米国、欧州、日本、中国)。全てのパイプラインを示している訳ではありません。異なる疾患領域でも開発を実施していることがあります。

- オフアンドラッグ（希少疾患医薬品）指定（いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの）
- 申請が可能な臨床第2相試験

# 臨床評価中のパイプラインの対象となる患者集団

## ファーストインクラスまたはベストインクラスの可能性を有する新規候補物質

	製品	作用機序	適応	対象患者集団 (米国) <sup>1</sup>	対象患者集団 (世界) <sup>1,2</sup>
オンコロジー	●● mobocertinib (TAK-788)	EGFR/HER2 チロシンキナーゼ阻害薬	Exon20 非小細胞肺がん 1L / 2L HER2変異非小細胞肺がん 2L+/ HER2変異固形がん	~4千人 <sup>3</sup> ~2.6千人 <sup>4</sup> / 調査中	~2-3万人 ~8千人 / ~8千人 <sup>5</sup>
	●● pevonedistat (TAK-924)	NAE阻害剤	高リスク骨髄異形成症候群 / 急性骨髄性白血病	~7千人 / ~1.2万人	1.5-2万人 / 2-2.5万人
	TAK-007	CD19 CAR-NK	血液がん	~9千人	~1.5-2.5万人
希少疾患 免疫疾患 血液疾患 代謝性疾患	● TAK-609	酵素補充療法 / I2S補充	ハンター-CNS (IT)	~250人	~1-1.5千人
	● maribavir (TAK-620)	UL97キナーゼ阻害剤	移植時のサイトメガロウイルス感染	~7千人-1.5万人	~2.5-4.5万人
	TAK-611	酵素補充療法 / アリルスルファターゼA	異染色性白質ジストロフィー (IT)	~350人	~1-2千人
	● TAK-755	酵素補充療法 / ADAMTS-13	先天性血栓性血小板減少性紫斑病 / 免疫性血栓性血小板減少性紫斑病	~500人 / ~2千人	2-6千人 / 5千-1.8万人
	TAK-607	IGF-1/IGFBP3	早産時における合併症	~2.5千人	~8-9万人
ニューロサイエンス	Orexin programs	オレキシン2受容体作動薬	ナルコレプシータイプ1 ナルコレプシータイプ2	~7万人 <sup>6</sup> ~3万人	~30-120万人 ~25-90万人
	TAK-935	CH24H阻害剤	発達性およびてんかん性脳症	~5万人	~7-9万人
消化器系疾患	● TAK-721	経口抗炎症剤	好酸球性食道炎	~15万人	調査中
	TAK-101 / TAK-062	免疫寛容療法 / グルタナーゼ	グルテンフリー食にも関わらず重篤・難治性セリアック病	35万人	70万人 <sup>7</sup>
ワクチン	● TAK-003	ワクチン	デング熱	~3200万人	~18億人

\*1. 規制当局からの承認取得を前提に、製品上市が想定される市場における治療対象患者数の予測推定値  
\*2. TAK-788, TAK-924, TAK-007, TAK-607 および TAK-620については、年間発症数を対象とみなしている

\*3. 修正された予想  
\*4. 主要7ヶ国における発症者数

\*5. 対象となる患者集団の修正予想；有病者数 約14万人  
\*6. EUCANのみが数字。世界の対象患者数は調査中

● 現在、ヒト臨床試験あるいは申請可能なPh2試験を実施中



# 略語用語集

### 地域に関する略語:

CN: 中国; EU: 欧州; JP: 日本; US: 米国

AD	Alzheimer's disease (アルツハイマー病)	DAAO	D-amino acid oxidase (D-アミノ酸酸化酵素)	IV	intravenous (静脈投与)	PK	pharmacokinetics (薬物動態)
ADC	antibody drug conjugate (抗体薬物複合体)	DEE	developmental and epileptic encephalopathies (児/小児性てんかん/重積状態)	IPSC	induced pluripotent stem cells (人工多能性幹細胞)	POC	proof of concept (概念実証)
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder (注意欠陥多動性障害)	DLBCL	diffuse large B cell lymphoma (びらん性大細胞型B細胞リンパ腫)	L-ASA	low dose aspirin (低用量アスピリン)	POGD	post-operative gastrointestinal dysfunction (術後消化器機能障害)
ALK	anaplastic lymphoma kinase (未分化リンパ腫キナーゼ)	DU	duodenal ulcer (十二指腸潰瘍)	LB-ADA	Lewy Body Dementia (レビー小体病)	POI	post-operative ileus (術後イレウス)
ALS	amyotrophic lateral sclerosis (筋萎縮性側索硬化症)	Dx	diagnosis (診断)	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia (低ブラスト急性骨髄性白血病)	PTCL	peripheral T-cell lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)
AML	acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病)	EE H	erosive esophagitis healing (びらん性食道炎の治療)	LS1	Lysine specific demethylase 1 (リジン特異的脱メチル化酵素1)	PTH	parathyroid hormone (副甲状腺ホルモン)
ASCT	autologous stem cell transplant (自家幹細胞移植)	EE M	erosive esophagitis maintenance (びらん性食道炎の再発予防)	LCM	lifecycle management (ライフ・サイクル・マネジメント)	R/R	relapsed/refractory (再発/難治)
ARD	acid-related diseases (酸関連疾患)	EFI	enteral feeding intolerance (経腸栄養不耐性)	MAb	monoclonal antibodies (モノクローナル抗体)	RCC	renal cell cancer (腎臓がん)
BTK	Bruton's tyrosine kinase (ブルトン型チロシンキナーゼ)	EGFR	epidermal growth factor receptor (上皮増殖因子受容体)	MAOB	monoamine oxidase B (モノアミン酸化酵素B)	RTK	receptor tyrosine kinase (受容体チロシンキナーゼ)
BBB	blood brain barrier (血液脳関門)	EOE	eosinophilic esophagitis (好酸球性食道炎)	MG	myasthenia gravis (重症筋無力症)	SALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma (全身性未分化大細胞リンパ腫)
BOS	budesonide oral solution (ブデソニド経口懸濁液)	ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma (食道扁平上皮がん)	MLD	metachromatic leukodystrophy (異染色性白質ジストロフィー)	SBS	short bowel syndrome (短腸症候群)
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T (次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞)	FL	front line (フロントライン適応)	MM	multiple myeloma (多発性骨髄腫)	SC	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
CD	Crohn's disease (クローン病)	FSI	first subject in (最初の患者登録)	NAE	NEDD8 activating enzyme (NEDD8活性化酵素)	SCD	sickle cell disease (鎌状赤血球症)
CHAWI	congenital hemophilia A with inhibitors (インヒビター保有先天性血友病A)	GCC	guanylyl cyclase C (グアニル酸シクラーゼC)	ND	newly diagnosed (新たに診断された)	SCT	stem cell transplant (幹細胞移植)
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	GERD	gastroesophageal reflux disease (胃食道逆流症)	NDA	new drug application (新薬承認申請)	SCZ	schizophrenia (統合失調症)
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (慢性炎症性脱髄性多発根神経炎)	GI	gastrointestinal (胃腸)	Neg	negative (陰性)	SLE	systemic lupus erythematosus (全身性エリテマトーデス)
CML	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)	GnRH	gonadotropin-releasing hormone (ゴナドトロピン放出ホルモン)	NERD	non-erosive reflux disease (非びらん性胃食道逆流症)	sq	squamous (扁平上皮)
CMML	chronic myelomonocytic leukemia (慢性骨髄単球性白血病)	GU	gastric ulcer (胃潰瘍)	NK	natural killer (ナチュラルキラー)	STING	stimulator of interferon genes (インターフェロン誘発因子)
CMV	cytomegalovirus (サイトメガロウイルス)	GvHD	graft versus host disease (移植片対宿主病)	NME	new molecular entity (新規候補物質)	SUMO	small ubiquitin-related modifier (低分子ユビキチン様修飾因子)
CSF	cerebrospinal fluid (脳脊髄液)	HAE	hereditary angioedema (遺伝性血管浮腫)	NSCLC	non-small cell lung cancer (非小細胞肺がん)	TESD	treatment emergent sexual dysfunction (治療に起因する性機能障害)
CNS	central nervous system (中枢神経系)	H2H	head to head (直接比較)	NSCT	non stem cell transplant (非幹細胞移植)	TKI	tyrosine kinase inhibitor (チロシンキナーゼ阻害剤)
CRL	complete response letter (審査完了報告通知)	HCC	hepatocellular carcinoma (肝細胞がん)	NS	negative symptoms (陰性症状)	TRD	treatment resistant depression (治療抵抗性うつ病)
CRPS	complex regional pain syndrome (複合性局所疼痛症候群)	HemA	hemophilia A (血友病A)	ORR	overall response rate (全奏効率)	UC	ulcerative colitis (潰瘍性大腸炎)
CTL	Cytotoxic T Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)	HR2	human epidermal growth factor receptor 2 (ヒト上皮成長因子受容体2)	PARP	poly (ADP-ribose) polymerase (ポリADPリボースポリメラーゼ)	VWD	von Willebrand disease (フォン・ウィレブランド病)
cTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura (先天性の血栓性血小板減少性紫斑病)	HL	Hodgkin's lymphoma (ホジキンリンパ腫)	PCAB	potassium competitive acid blocker (カリウムイオン競合型アシッドブロックャー)		
		HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes (高リスク骨髄異形成症候群)	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia (フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病)		
		IBD	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)	PID	primary immunodeficiency (原発性免疫不全)		
		IND	investigational new drug (治験薬)				
		I/O	immuno-oncology (がん免疫治療)				
		ITTP	immune thrombotic thrombocytopenic purpura (免疫性血栓性血小板減少性紫斑病)				

